

別冊 I メイト便り第14号

I メイト交流の愉しみ

— アジ風に乗って I メイト交流はひろがる —

特集：アジアの新しい風創立15周年記念号

— 15年を振り返って

— アジ風のこれから

認定NPO法人 **アジアの新しい風**

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414

TEL/FAX 03-5426-6714 <http://www.npo-asia.org>

2018年9月1日 発行

アジア風誕生十五周年を祝して

十五年前、あの暑い夏の日、マンシヨンの集会場で「アジアの新しい風」は産声をあげた。日本語を学ぶアジアの学生との交流と理解を深め、平和に繋がる一歩を目指して！スタート当初のメンバーは七十七人 中国の参加学生は二十六人

その後、タイ、ベトナム、インドネシアと交流の翼を広げ

今、メンバーは二百人余、 巣立った学生は八百人余を越えた。

十五年前の学生達は今、世界で、日本で、現地日本企業でと活躍している。

そして、交流した日本のメンバーは親子より年の離れた学生達と深い絆で結ばれお互いの幸せを願い、その国の平和と世界の平和を願う関係となった。

「アジアの新しい風」の志は草の根を広げ、お互いの心に友情を育み、平和へと繋がる道を築いた。

十五年に亘る努力は、着実に花を咲かせ、ささやかでも実を結ぶ途上にある。

驚愕的に混乱、混沌とする世界で、ますます必要となる草の根のネットワーク

「アジア風」がこれからも「新しい風」を吹き続け、成長することを願って！

高 橋 雪 子（正会員・テーマソングの作詞者）

目 次

讃 アジ風誕生十五周年を祝して

高橋 雪子

まえがき

理事 上 高子 …… 3

1. アジアの新しい風創立15周年を振り返って

- (1) 2003年度（アジアの新しい風が吹き始めた） …… 4
アジ風と私 耿 秋 北京第二外国語大学卒
- (2) 2004年度（清華大学日本語学科と交流が始まった） …… 6
アジ風と私 何 芳 北京第二外国語大学卒
- (3) 2005年度（タマサート大学日本語学部と交流を開始） …… 8
アジ風と私 趙 雅婷 北京第二外国語大学卒
- (4) 2006年度（林雄二郎特別顧問が理事長に就任） …… 10
アジ風と私 王 曉寧 北京第二外国語大学卒
- (5) 2007年度（ハノイの貿易大学と交流開始） …… 12
アジ風と私 唐 靈慧 北京第二外国語大学卒
- (6) 2008年度（実り多い交流大学訪問を年に3回） …… 14
アジ風と私 楊 敏 清華大学卒
- (7) 2009年度（認定NPO法人として認められました） …… 17
アジ風と私 ドゥアンケーオ・スットプラータナー タマサート大学卒
- (8) 2010年度（私たちはつながっている） …… 20
アジ風と私 ダム・ホアン・ザン 貿易大学卒
震災特集 …… 23
- (9) 2011年度（日本の思いやり文化はアジ風に通じる） …… 25
アジ風と私 ヴー・ティ・ビックホン 貿易大学卒
- (10) 2012年度（善意に満ちた真剣な心の交流を源に） …… 28
アジ風と私 チャン・マイ・フォン 貿易大学卒
- (11) 2013年度（今年はアジアの新しい風創設10周年） …… 31
アジ風と私 宋 天鴻 清華大学卒
- (12) 2014年度（更なる飛躍を目指して） …… 34
アジ風と私 ダオ・ティ・イェン 貿易大学卒
- (13) 2015年度（認定NPO法人として再認定されました） …… 37
アジ風と私 テッパラット・シワポーン タマサート大学卒
- (14) 2016年度（パジャジャラン大学と交流を開始しました） …… 40
アジ風と私 王 鶴 清華大学卒

(15) 2017年度（日本で五か国交流会を開催）	43
アジ風と私 馮 峰 清華大学外文系東アジア言語・文化研究群責任者	
(16) 写真で見る2017年度の活動	46

2. アジ風と私、これまでとこれから

(1) 難波美慧	北京第二外国語大学卒	52
(2) 福山阿英	北京第二外国語大学卒	
(3) チャン・トゥ・チャン	貿易大中途退学→京都大卒	53
(4) クスマー・タイニコ	タマサート大学卒	54

3. アジ風のこれから

● 5年後、10年後を見据えて	事務局長 奥山寿子	55
● 会員へのアンケート		56
● 座談会		60
司 会：上高子		
参加者：菊池和美 竹宮聡 チャン・トゥ・チャン 荒木春洋 奥山寿子		
● 役員からのメッセージー 5年後、10年後のアジ風ー		
(1) 2028年を夢見る	理事長 加納啓良	67
(2) トランスボーダーの企画	理 事 上 高子	
(3) 創立15周年を迎えて	理 事 谷口浩章	68
(4) 全員参加で運営	理 事 中村一郎	
(5) 長く深い関係がアジ風の魅力	理 事 福田陽子	69
(6) Iメイト交流はアジ風活動の根幹	理 事 古海正子	
(7) 創立15周年に当たり	理 事 石河庄一	70
(8) 世界に友を得る喜び	理 事 武田 高	71
(9) これからもアジアの新しい風	監 事 大橋典子	
● 東京工業大学と清華大学の架け橋グループからのメッセージ		
(1) 王亜民（東京工業大学北京事務所）		72
● 交流校からのメッセージーアジ風に期待することー		
(1) 陳愛陽（清華大学）		73
(2) タサニー・メーターピスィット（タマサート大学）		
(3) チャン・ティー・トゥ・トゥーイ（貿易大学）		74
(4) ユユ・ヨハナ・リサカルニワ（パジャジャラン大学）		75
(5) 学校概要		76

編集後記	中村泰寿 原谷洋美	78
------	-----------	----

*掲載名は敬称略、役職名は編集時で記載

まえがき — トランスボーダーを目指して —

アジアの新しい風が創立15周年を迎えるにあたり、過去のデータをひも解く日々が続いた。

第1回総会記念講演で、初代理事長 故林雄二郎氏が力強く語られた「新生NPOアジアの新しい風に期待する」を熟読して感動を新たにした。「大国の自国中心主義は間違っている。文化の独自性を互いに知り、『境』を無くす（ボーダーレス）のではなく『境』を超えて（トランスボーダー）相互理解を目指すのがアジ風の使命である」。第7回総会では、故岸井成格氏（毎日新聞特別編集委員）が「文明の岐路に立つ世界と日本」というテーマで、「このままいけば人類は滅亡する」と訴えておられた。

連日のごとく問題が発生している昨今の日本社会だが、「安心安全」を何よりも優先してリスクを取らず、閉鎖的な社会を築いてきたがゆえに、グローバルなストレスに耐性のない人間が増えてきたのではないかな。もっと世界へ、もっと異文化へ目を向けよう。

では、アジ風はどういう世界を目指しているのか。理念である「多文化共生」とは、「世界は多様性に充ち、さまざまな文化で成り立っている」ことを認めたくえて、紛争や対立をハードパワー(武力や金力)によらずに、ソフトパワー（コミュニケーションなどの人間力）によって、折り合い点を見つけ合意を形成する、というものである。

現に繰り広げられているのは、ハードパワーによる威嚇が当然のごとく行われている世界である。「自国ファースト」「自分ファースト」の言動を見るにつけ、人類は後退しているのではないかな、と疑いを強くする。他方、人権意識に基づき、弱者や少数派への配慮が促進しつつあることは、我々の希望であり、強いものが弱いものを支配するという構図を少しずつ変えることを、引き続き目指したい。

急激なグローバリゼーションによる一様化の中で、残すべきアジア・日本の文化（良き遺産）と、変えるべき文化（反人権や悪弊）を見分ける慧眼が欲しい。そして変化においては、適したスピードを判断する知恵が欲しい。

アジ風は「多文化共生」を体現しているだろうか。ときに胸に手を当てて顧みるときもあるが、この冊子を編纂するうち、過去15年間に培ったIメイト交流は、相互理解の芽を確実に育んできたと自信を持つことができた。今後とも、微力ながらアジアの国々に「架け橋となる人材」を育てていきたい。草の根の、みんなで作るNPO、を継続したい。私たちの活動が、世代交代を果たし引き継がれて、5年後、10年後にも生き続けることを願って！

Iメイト交流担当理事 上 高子

アジアの新しい風が吹き始めた

(2003年7月15日～2004年6月30日)

平成15年(2003年)7月15日認証書発行 東京都知事 石原慎太郎

第1回総会

日 時：2003年8月23日(土)

会 場：世田谷区パークシティ弦巻内ソサイエティハウス 出席者38名

会 員：77名(発足時)このうち15年後現在の在籍数は21名

会 計：収入 1,979,586円 支出 1,781,136円

役 員：上高子理事代表、奥山寿子・新倉方子理事、
新井雅夫監事に就任

派遣教師：北京第二外国語大学(二外)

山岸摩耶さん

Iメイト交流：二外学生26名で始まる。

学生はまだ自分のPCを持たないので、図書館のPCを借り、文字化けと不通は日常茶飯事だった。



講演会

講師：林 雄二郎氏(特別顧問・日本NPO学会名誉顧問)

演題：「新生アジアの新しい風に期待する」

要約：NPOは脱工業化社会の主役で、利他を目的とする。アジ風は国境を越えて草の根の相互理解の努力をするが、それはボーダーレスではなく、互いの違いを認め合うトランスボーダーを目指す。

<アジ風新聞創刊号の編集後記からの抜粋>

2月、NPO設立セミナー受講から始まった。4月には、NPO設立の申請を東京都へ。7月、NPO認証される。8月、初の総会。第一期日本語教師の派遣。10月「Iメイト交流」の開始と北京訪問。そして11月、「アジ風新聞」の発行。風のように駆け抜けた一年だった。

書類の作成やお役所通い。慣れない仕事の中で、何よりの感動は、多くの方々のご支援と協力である。特別顧問を引き受けてくださった林雄二郎先生はもとより、役員のみなさん、77名の初年度会員のみなさん。NPOの重要なコンセプト「協働」そのものであり大変心強い。

イベント

- ・ **新春交流会** 2004年1月28日 於：江戸川区清新町コミュニティ会館
クラシック演奏会、派遣教師とIメイト交流の報告会 60名参加
- ・ **アジ風のテーマソングの翻訳詩コンテスト** 二外Iメイト学生対象
応募作品23編のうち、1位から3位とエッセイ賞、ユニーク賞が選ばれた
- ・ **北京訪問旅行** 5月23日～26日
北京第二外国語大学訪問と名所旧跡の観光 7名参加



■アジ風と私

恵さんは千の風になって



耿 秋 北京第二外国語大学卒

2003年11月、大学3年生のとき、「アジアの新しい風」に参加して、重信恵さんと初めてのメールを交わしました。最初は、文字化けなどで、なかなかうまく行きませんでした。私たちは、善意を込めお互いに努力してようやく順調になり、1年半近くの間、100通ぐらいメール

をやりとりしました。

2005年3月、ご主人の重信克昌さんから、恵さんのご逝去について、連絡いただいたメールを読んで、驚くと同時に悲しくて泣きました。今、そのメールを再読しても、涙がこぼれてきます。そして、重信さんの恵さんへの愛を一層深く理解できます。

恵さんとわたしとのメール交換は、一冊の記念冊子（後に別冊Iメイト便りの1号）に収録されました。それは貴州の実家に大切に保管しており、毎回、実家に戻って、文字に優しく触れると、大学や青春時代の「思い出」、「笑い」、「悩み」がいきいきと蘇ってきます。

2013年、アジ風の仲介で北京で重信さんに初めてお会いしました。それ以来お互いに、心の込めたプレゼントを贈り合っています。

「アジ風」の15周年にあたり、この場を借りて深くお礼を申し上げますとともに、ますますのご発展を心からお祈りします。「アジ風」の人間味に深く惹かれています。これからも、それが続くように、一緒に頑張らしましょう！

（註：在上海 知的財産権事務所勤務）

清華大学日本語学科と交流が始まった

(2004年 7 月 1 日～2005年 6 月30日)

北京第二外国語大学に続き、中国の名門校・清華大学日本語学科と交流開始

第 2 回総会

日 時：2004年 8 月21日（土）

会 場：NHK青山荘 出席者60名

会 員：98名

会 計：収入 2,041,648円 支出 1,962,673円

役 員：前年度と変更なし

派遣教師：二外 恵谷容子さん、

清華大学 信岡麻理さん、飯島美知子さん

I メイト学生：2 校で合計47名

講演会

講師：石井 米雄氏（タイ語研究者・人間文化研究機構長）

演題：「アジアの言語—その系譜と漢字圏」

要約：アジアの言語を大きく 2 分すると、中国の影響を受けた漢字圏の朝鮮半島、日本、ベトナム。インド影響を受けたサンスクリット・バーリー語文化圏のビルマ、タイ、ラオス、カンボジア。残りはそれらいずれにも属さない国々である。

4 月の小泉首相の靖国参拝を機に、大掛かりな反日デモが広がった。4 人の I メイト学生からアジ風新聞に寄稿があり、その一つを掲載する。

「黒い雨」という映画を観た。実は広島原爆に対して「ざまを見ろ」という中国人は少なくない。この映画を観た後、私は身に染みるほど広島市民の不幸を感じた。一般庶民は罪がない。どうしてそんなひどい目にあったのだろうか。フットボールのマリのように膨れ上がって、頭の毛も眉毛も消えていた少年。死んだ赤ちゃんを抱き、気が狂った母親。みんな戦争のせいだ。中日両国も被害を受けた。苦難を理解しあい、相手の立場から見たらどうか。多くの中国人が日本の本当の姿を、多くの日本人が中国のさまざまな姿を知ってほしい。日本語の学習者は日本人との草の根の交流が大切だと思う。（二外李丹さん→新井雅夫さん）

イベント

- ・ **Iメイト交流会** 於：江東区亀戸文化センター 20名参加
メール交流について披露し、語り合った。
- ・ **新春交流会** 2005年2月6日 於：NHK青山荘 50名参加
スピーチは清華大学馮峰先生「中国における日本語学習と日中関係」、アジ風テーマソング（作詞正会員の高橋雪子さん）を作曲した金井優佳さん（後に正会員）が歌を披露 タイの大津波被災者支援のオークション
- ・ **タマサート大学訪問** 上理事、井村倫子さん（2005年理事就任）が日本語学部との交流を申し入れ。大津波被災者へ60,000円の寄付



交流申し込みのためタマサート大を訪問した井村さんと上さん

- ・ **清華大へ寄贈品** 会員有志から募った図書や、和装着物を寄贈した
- ・ **江戸川事務所オープン**

■アジ風と私

私の対日観はアジ風で作られた？



何 芳 北京第二外国語大学卒

アジ風との出会いは、確かに、2004年の冬だった。日本語を上達したく入会した。丹波新聞の小田晋作さんとIメイトとなり、日本語の指導を受けてきた。長年新聞社に勤められたこともあり、指導は厳しかった（笑）。お陰で、日本語が上達した。

その後、2010年4月に来日し、留学生活が始まった。日本での生活もかれこれ8年以上経った。東京では、上高子さん、五十嵐久仁香さん、西川恵美子さんと仲良くなった。さらに輪が広がり、ベトナムの留学生とも仲良くなった。博士課程の勉強はストレスが多いこともあり、いつも気を遣ってくださり、食事に誘われたり、一緒に映画を見に行ったりした。誕生日や博士号の取得、就職なども祝ってくださった。家族のように、私の成長を見守り、成果を喜んでくださった。この場をお借りして、心より御礼を申し上げたい。

友達から「何さんは日本では、優しい方としか接触していないので、日本に対する認識にはバイアスがある」と言われたことがある。このバイアスはアジ風との付き合いによるところが大きいと思える（笑）。これからもアジ風との繋がりを大切にしていきたいと思う。

（註：慶應義塾大学大学院博士号取得 正会員）

タマサート大学日本語学部と交流を開始

(2005年7月1日～2006年6月30日)

7月からタマサート大学とのIメイト交流が始まりIメイトは合計54名に

第3回総会

日 時：2005年9月3日（土）

会 場：NHK青山荘 出席者62名

会 員：144名

会 計：収入 4,703,020円 支出 4,687,890円

役 員：理事2名増員 井村倫子・西尾政次理事に就任（変更のみ）

派遣教師：二外 小池牧子さん、清華大学 黒崎佐仁子さん、
タマサート大学 日置陽子さん(後にアジ風理事 現姓は福田)

講演会

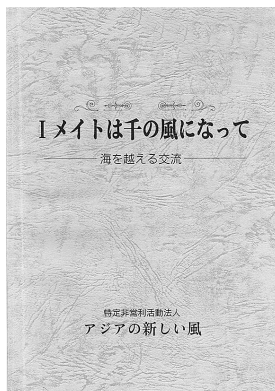
講師：大野静三氏 元NHK解説委員

演題：「日中関係80年」

要約：1920年代に始まった中国への侵略から日本が敗戦に至った経緯。

戦後の日中関係の変遷、国交回復から政治経済の両面から語った。

「Iメイトは千の風になって」(後に別冊Iメイト便りの初刊号となる冊子)を発行。故重信恵さんとIメイトの二外学生の耿秋さん(※P5参照)とのメール交流を収録し、総会で配布。大勢の感涙を誘った。発行費用には、会員の寄付金6万円と、夫君重信克昌さんからの寄付10万円が充てられた。



朴阿英さん NHK訪問（スピコン優勝褒賞）

イベント

- ・ **訪中旅行** 10月下旬 西安→北京組の10名と北京で合流組の10名の合計20名が訪中し、清華大と二外の合同スピーチコンテスト「日中間の情報がギャップをどう埋めるか」を観戦。Uさん（金井優佳さん）のコンサート、日本語劇、日本語授業参観などを楽しんだ
二外の朴阿英さんが「ありのままの姿」という演題で優勝。賞品は日本への招待旅行。新春交流会で、スピーチを再現。Iメイト宅や会員のお宅へホームステイを体験し、日本のよさを満喫して帰国した
（朴さんは後に日本の大学院へ進学 現性は福山・家族会員 ※P52参照）
出発10日前に小泉首相の靖国神社参拝が挙行され、さまざまな日中間の行事のキャンセルが報道されたため、アジ風もキャンセルを検討した。しかし、清華大の配慮ある受け入れで実現した
- ・ **Iメイト交流会** 6月3～4日 24名参加 於：江戸川事務所
「異文化間メール交流によって相手国に対する認識が変わったか」

■アジ風と私

今の幸せはアジ風との出会いから



趙 雅婷 北京第二外国語大学卒

私は二外卒業の趙雅婷です。2年生の時にアジ風の活動を知りIメイトとして古澤サヨ子さんと知り合いました。交流会では園木宏志さんとお会いし横浜中華街の美味しい店を教えてくださいました。現在勤務している会社の日本出張の際にはお二人と東京

でお会いしました。二外卒業後は日本で2年3カ月勤務し、その間に夫のチャドと知り合い結婚しました。上海での結婚式にはサヨ子さんも出席して下さいました。結婚して渡米する時にはサヨ子さんからアメリカで自立する為には、まずグリーンカードと運転免許を取得して就職する事をアドバイスされました。

夫はマイクロソフト社に勤務し、私は船舶にオイルを供給する会社に勤務して営業を担当しています。最近私は日本の自衛艦2隻に給油する仕事を獲得しました。私には3歳になる息子と8月には女の子を出産予定です。両親のグリーンカード取得を有利にする為に私は市民権を取りアメリカ人として安定した生活を送っています。

桜美林大学に留学し、日本で働き、夫と知り合い、出張の時には母が子供の世話をしてくれるこうした今の生活があるのもアジ風との出会いがあったからだと心から感謝しています。

林雄二郎特別顧問が理事長に就任

(2006年7月1日～2007年6月30日)

林雄二郎氏(第一回総会の講演者、作家林望氏の尊父)が、初代理事長に就任
「自国中心のナショナリズム勢力への警戒、もっと議論を深めること、I
メイト会員は学生に対して上から目線でない、お互い学びあう関係を築い
て、日本の外交下手を補ってほしい」と力強く述べられた

第4回総会

日 時：2006年8月27日(日)

会 場：中野サンプラザ 出席者50名

会 員：153名(Iメイト会員57名)

会 計：収入 1,788,155円 支出 1,719,371円

役 員：林雄二郎理事長に、上高子理事代表が辞任し理事・事務局長に、
新井雅夫監事が辞任し理事に、谷口浩章監事に就任(変更のみ)



派遣教師：二外 小池牧子さん、清華大学 青山玲二郎さん、
タマサート大学 日置陽子さん

Iメイト交流大賞(後にIメイト・オブ・ザ・イヤーと改称)が新設さ
れ第一号として、Iメイト会員の竹宮聡さんが受賞。2005年度の交流実
績が認められた。

講演会

講師：川本皓嗣氏(東京大学名誉教授・国際比較文学会名誉会長)

演題：「日本人はユニークか」

要約：日本人は自らがユニークであると独自性を主張するが、それは風変
わりであり、自ら普遍的でないと認めていること。今あって欲しい
ものを昔からあるように願望する遡及的、本質化願望はどの文化に
も見られるが、何も人と違う必要はない。

イベント

- ・Iメイト交流会 11月22日、23日 於：江戸川事務所 参加者合計16名
- ・タマサート大学訪問旅行 2月21日～25日
授業参観、作文コンテスト評価、着物の着付け教室、市内観光
- ・新春交流会 2月17日 於：NHK青山荘 約60名参加
「コミュニケーションの力を磨く」をテーマに、会員の上篤さん(大手前大学教
授)によるワークショップ。よく知らない会員同士が、対話と親睦を深めるた

めにグループディスカッションの試みを初めて行った。

- ・寄贈図書贈呈式 社団法人出版図書国際交流会から寄贈された書籍が、交流三大学(二外、清華、タマサート)と予定校(貿易大)へ贈呈された

- ・上理事と谷口監事が貿易大学を訪問

2月26～3月1日 図書寄贈

来年からの交流決定

- ・清華大訪問 6月21日～24日 7名参加
清華大キャンパスツアー、第一回読書感想文 二外、清華との合同コンテスト実施。一位 二外 崔振宇さん、賞品は電子辞書。



貿易大学へ交流申し込み

- ・Iメイト交流会 4月27～28日

於：江東区民会館 参加者合計26名 事例研究

■アジ風と私

アジ風との絆はこれからも



筆者は後列中央

王 曉寧 北京第二外国語大学卒

アジ風のメンバーになったのは、2006年の秋、大学2年生の時のことであった。日本人の友達をつくって、日本語の能力をアップさせたいとの思いが最初あった。そして、10月24日に、Iメイトの藤原ひさ子さんから最初のメールを受

け取った。嬉しくて、また文法や言葉遣いに間違いはないかと気遣いながら藤原さんに返信した。書道が上手でそれを仕事にする藤原さんは、すばらしいと思う。優しくて熱心に私の日本語の勉強を手伝ったり、日本に関することをいろいろ教えて下さった藤原さんに感謝の気持ちでいっぱいである。北京で行われたスピーチコンテストや東京でのフジテレビ見学など、アジ風には多彩なイベントに招待していただいた。アジ風の皆さんと出会って楽しく話し合うことができた。私にとってすばらしい体験であった。

卒業しても、アジ風との絆は切れていない。藤原さんとの連絡も切れていない。2016年に、6年ぶりに北京で再会した。その間に私は転職し、結婚して、娘も生まれた。2年後の今年は主人と娘と、藤原ご家族の皆さんとまた日本で会うことが出来た。最初の出会いはや12年が経った。なんという縁だろうかと思う。この縁はこれからもずっと続いていくと信じている。

(註：在北京)

ハノイの貿易大学と交流開始

(2007年7月1日～2008年6月30日)

貿易大学が加わり二外が外れて、交流国が中国、タイ、ベトナムの3か国に

第5回総会

日 時：2007年9月9日（日）
会 場：NHK青山荘 出席者63名
会 員：157名
会 計：収入 2,161,670円
支出 2,220,123円
役 員：前年度と変更なし



バイクと自転車があふれる貿易大学のキャンパス

派遣教師：清華大学 笈川幸司さん、タマサート大学 日置陽子さん、
貿易大学 新倉方子さん

'06年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー：坂上勝朗さん

講演会

講師：古屋和雄氏（NHK元エグゼクティブ・アナウンサー）

演題：「言葉で豊かな人間関係」

中国の「和顔愛語」「患難知交」「同文同種」を引き合いに、日本語の言い回しの特徴、使われている言葉が日本の中でも地方によって微妙に異なっていること、日本語には主語が省かれることが多いため外国語の表現からすると奇異な点があることなどが話され、「言葉で豊かな人間関係を築く」あり方が話された。

イベント

- ・ **留学生ネット発足**（後の留学生支援活動）。坂上勝朗さんが世話役代表に。
9月12日～14日 NHKスタジオ見学や、「日本に留学して感じたこと」を話し合い、浜離宮の散策や水上バスでの浅草散策などを楽しんだ
- ・ **秋の I メイト交流会** 12月6日、8日 於：JICA地球広場
「多文化共生を学ぶ集い」今回のテーマは「コミュニケーションとマナーについて学ぶ」24名参加（4名の留学生が初めて参加）
- ・ **春の I メイト交流会** 5月15日、5月18日 於：JICA地球広場
両日で合計21名参加
- ・ **新春交流会** 2月9日 於：JICA地球広場 54名参加
貿易大派遣教師の新倉方子さんが「ベトナム見たまま感じたまま」と題して体験談を発表。留学生が「実際に住んでみた日本」をスピーチ

- ・読後感想文コンテスト（中国在北京の大学生を対象に）於：北京
- ・タマサート大学訪問旅行 2月21日～25日 7名参加
年末のバンコク市内爆破事件の影響で、参加者申込者が激減。スピーチコンテスト、着物の着付け、授業参観、キャンパスツアーなど
- ・日本語スピーチコンテスト（日経新聞主催）で、朴阿英さん（二外元Iメイト学生）が、準優勝
- ・四川大地震へ寄付金 合計452,000円を清華大へ届ける

■アジ風と私

アジ風から学んだ異文化交流の姿勢



唐 靈慧 北京第二外国語大学卒

アジ風に出会ったのは十年も前のことでした。交換留学がきっかけで、アジ風の事務局に勤めるチャンスをいただき、アジ風の皆さんと一年間ぐらいのお付き合いをしました。それはその後の人生に大きな影響を及ぼす一年でした。

その後、中国に帰り、またフランスへ留学しましたが、日本にいても、フランスにいても、北京や上海にいても、私は異郷人です。周りの人たちとの間に、文化の違いはいつも感じています。ですが私はより寛容で、開いた心で向き合うことができました。なぜなら、アジ風の一年で異文化交流という姿勢を学んだからです。

世の中はすべて白黒付けることはできません。あるできごとの表に、文化、家庭、育ち、価値観などが裏を付けます。人それぞれ違うから、世界は面白いです。異なることに出会ったら、まずは拒否というよりも、少しずつ知って、分かって、そして理解するのが、自分にいい経験を与えてくれます。そして、人に優しくすれば、必ずとは言えなくても、大きな比率で優しくされます。そして、その優しさは倍増します。私は日本で一年間アジ風の皆さんに大変お世話になりました。帰国してから、日本に誤解がある中国人たちに、日本人の優しさを伝えています。そして周囲の人たちも、日本はいい国だな、旅行にでも行きたいなと思うようになりました。私たちが撒いた優しさの種が、いつかどこかできつと芽吹きます。これも異文化交流の楽しさの一つでしょう。

（註：在上海 ネットの語学教育事業で日本語チームリーダー）

実り多い交流大学訪問を年に3回

(2008年7月1日～2009年6月30日)

6月の清華大訪問時には、中国でSARSが大流行し、催行が危ぶまれたが、4名の参加者はこれを決行し、無事帰国

第6回総会

日 時：2008年9月6日（土）

会 場：NHK青山荘 出席者90名

会 員：152名

会 計：収入 2,645,365円 支出 2,493,022円

役 員：西尾政次理事が退任、藤原玲子理事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 高井曜子さん、タマサート大学 神谷恵理さん、
貿易大学 児玉久美子さん

'07年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：藤原博子さん

講演会

講師：寺島実郎氏（財団法人日本総合研究所会長）

演題：「日本はアジアとどう向き合うべきか」



定期的にアメリカを訪問し、観察している目には、「疲弊するアメリカ」が映る。東西冷戦が閉じたとき、アメリカ型資本主義がグローバルスタンダードになるだろうと大方が認識をしたが、9・11から大きく世界が変わり始めた。イラクでの失策、サブプライムローンに端を発した金融危機、これらは「軍事力も経済力も」世界一の国でさえ、力の論理が成功しないことを示している。

戦後アメリカばかりを見てきた日本人は固定観念と視野狭窄に陥り、アメリカの国力低下につきあって、グローバル規模で相対的に日本の国力低下を招いている。一方、'07年貿易額はアメリカより中国へ逆転し、人の流れもアメリカよりも中国へ増加しつつある。

「アジアとどう向き合うか」という今回のテーマについては、「重層関係を築くこと」を提言する。日米関係は中国を外せない。日中・二国間関係では終わらない、トライアングルの関係である。

志の高いNPOに、世界はどうなっているかを考え直すヒントを与えたい。

イベント

- ・ **奥丹波訪問** 11月22日～24日
馮峰教授や留学生3名を加え28名参加 Iメイト交流に加え日中親睦卓球大会や農家民宿体験
- ・ **清華大学訪問** 11月28日～30日
5名参加 日本語授業の参観が圧巻 国も年齢も超えた交流を実現



奥丹波訪問



- ・ **アンケート実施** 回収率34% 会員になった目的(2つまで回答可)は「異文化への興味」と「社会貢献」が全体の68%を占める
- ・ **新春交流会** 2009年1月25日 於: JICA地球ひろば 54名出席
馮峰教授をゲストに「日本語との出会い」「日本社会は住みにくいかな」をグループディスカッション
- ・ **貿易大学訪問** 2月28日～3月2日 9名参加
スピーチコンテストに加え習字のパフォーマンスも実施



お習字パフォーマンス

- ・ **春のIメイト交流会** 4月29日 於: 江戸川事務所 15名参加
「〈スカイプ〉で声の日本語交流をしましょう!体験」
- ・ **清華大学訪問** 6月26～27日 4名参加
「読後感想文コンテスト」「学生と訪問団の座談会」

■アジ風と私

アジ風がくれた日本の家族



楊 敏 清華大学卒

「アジアの新しい風」に参加したのは2006年頃だった。その「風」に乗って森郁子さんと出会ってIメイトになった。偶然の出会いかもしれないが結びついたその「縁」は12年間も続いてきた。

メールを通じて日本語ばかりでなく日本の風俗などいろいろな勉強しているうちに、大学3年生の

夏、学生団体（AIESEC）の交流で日本で2週間の見学をする機会に恵まれた。ビザの申請など森さんやご家族が色々手伝ってくれておかげで来日することができた。森さんの家でも一泊し、ご馳走してくれた美味しい日本家庭料理、抹茶デザート、多摩川の花火大会、今でも印象深く残っている。

大学卒業後日本企業（上海）に就職し、2011～2013年、長期出張で日本で働いた期間中、森さんの家族と一緒に食事したり、東京散策、箱根旅行、誕生日祝いもしてくれたりして、まるで家族がそばにいて、東京での生活が全く寂しく感じなかった。

アジ風のIメイトという一人対一人の交流が国も年齢も超えたかけがえのない「家族」を与えてくれた事に感謝し、これからもこの絆を末長く大切にしていきたいと思っている。病気がちな森さんに息子を見せに日本に行くのが夫と私の今の目標です。

（註：在上海 日系銀行勤務）

認定NPO法人として認められました

(2009年7月1日～2010年6月30日)



この度「アジアの新しい風」は念願の「認定NPO法人」として、国税庁の認定を受けました。認定NPO法人制度はNPO法人への寄附行為を促し、NPO法人活動を支援するために作られた法制度です。認定NPO法人に寄附をした人は、寄附金控除等の税の優遇措置を受けられます。また、認定NPOになれば社会からの認知度や信用が高まります。

昨年末時点で全国に4万近くあるNPO法人のなかで認定を受けているのはわずか109法人しかなく、アジ風が今回認定を受けたことはアジ風のこれまでの活動が社会的に意義があり、その内容・運営方法・経理処理等の面でも高い評価を受けたことになります。会員の皆様にとっても寄附金が所得控除の対象になるほか、より自信と誇りを持って活動に参加するとともに、友人・知人にアジ風への参加を呼掛ける有力材料になります。

第7回総会

日 時：2009年8月30日（日）

会 場：NHK青山荘 出席者97名

会 員：161名

会 計：収入 2,963,120円 支出 2,918,885円

役 員：新倉方子理事が辞任 谷口浩章監事が辞任し理事に、中村一郎監事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 高井曜子さん、タマサート大学 井上隆さん、
貿易大学 小林さつきさん

'08年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：園木宏志さん

講演会

講師：岸井成格氏（毎日新聞東京本社特別編集委員）

演題：「文明の岐路に立つ世界と日本」

要約：奇しくも、衆議院選挙投票日であった当日、東西冷戦の終結、55年体制の崩壊から解き越こし、今回の総選挙によって政権交代が実現すれば、日本にとって明治維新、第二次世界大戦敗戦に続く、第3

回目の正に岐路となる歴史的出来事であること、また今後の展望についても「このままいけば、人類は滅亡する」と明快に予測を話された。報道取材上のこぼれ話の披露もあり、笑い声で会場が沸いた。



2018年5月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

懇親会ではゲストのタマサート大学のタサニー・メーターピスウィット先生から交流に対して感謝の挨拶があった。NPO法人森びとプロジェクト委員会（理事長・岸井成格氏）から、同会発行の『サルと人と森』『一握の砂』など60冊を贈呈される。

イベント

- ・留学生支援ネット交流会 8月3日 20名参加
- ・秋の1メイト交流会 11月28日 17名参加
- ・留学生支援ネット交流会 12月23日 40人参加

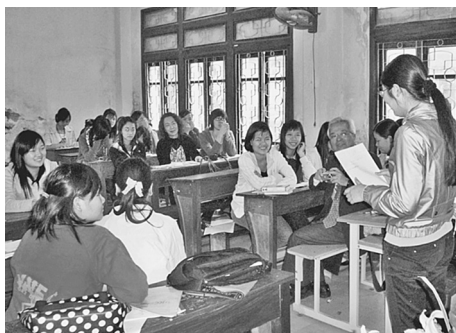
留学生たち12人と三鷹・ジブリ美術館見学、代々木オリンピックセンターで会員の指導による茶道・華道・習字の日本文化体験。このイベントに対して、公益信託パン・パシフィック・ファンドより267,400円の助成金が贈呈された



- ・新春交流会 2010年2月13日
於：JICA地球ひろば 64名出席
「留学生の日本語学習一難しさ、易しさ」
- ・貿易大学訪問 3月6～8日 5名参加
『サルと人と森』の読后感想文コンテスト
- ・春の1メイト交流会 4月29日
於：JICA地球ひろば 15名参加
- ・足尾銅山で植林 5月15日 7名参加



- ・清華大学訪問 6月4～7日 11名参加
「国も年齢も超えて」を実体感 読后感想文コンテスト実施



貿易大学訪問



初めて足尾銅山植樹に参加。まだまだはげ山

■アジ風と私

ずっと支えてくれたアジ風

ドゥアンケーオ・スットプラタナー タマサート大学卒



初めてアジ風に参加する時に、タマサート大学院1年生でした。日本人先生が急に転職して、大学院で勉強しながら、アジ風の活動のコーディネーターとして勤めていた。初めて社会人になったし、初めて本格的に日本人とメールのやりとりができたし、初めて森郁子さんと知り合いました。学生の時から社会人になるまでずっとアジ風の活動を続けてい

ます。私の一番長く続く活動の一つだと言えます。

学生の時には、日本語の練習場としてメールをやりとりしますが、現在には昔のようになくなりました。なぜなら、私と森さんはその線を超えてしまいました。実際に会って世間の話・意見を話し合ったり、日本の社会・生活適応のアドバイスなど、物理的と心理的に支援していただきます。もう7、8年を過ぎました。

今のフルタイム社会人になった自分を振り返ると、アジ風のお陰でいろいろ勉強チャンスが与えられています。例えば、卒業論文や日本生活などのアドバイス、日本語の確認、食事会・女子会、レジャーなどです。アジ風はずっとそばから支えていただきました。今後とも学生さんと共に成長するようお祈りいたします。

(註：琉球大学大学院で博士号取得 在神奈川 日本企業勤務 賛助会員)

私たちはつながっている

(2010年7月1日～2011年6月30日)

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災発生

その日にうちに事務局のパソコンは4通の安否確認メールを中国とタイから受信した。「日本で何か起きたようですが、会員のみなさんは大丈夫ですか」。翌朝からは「Iメイトからお見舞いのメールが届いて感動した」という知らせが続々と届くようになった。(略) ちょうど編集集中だったアジ風新聞年春号(第31号)はIメイトからのメールを「伝えたい思いあふれて」と特集し2ページ増とした。

貿易大学からは日本語クラブの学生達が折った千羽鶴(2011年に因み2011羽)が、留学生によって届けられ、6月4～5日の大槌町ボランティア活動をした際に、安渡小学校の児童に手渡した。参加した留学生の声は夏号(32号)に「ボランティア活動に参加して」とし、同じく2ページ増とした。

* 学生達のコメント特集ページを、2010年度の後に記載



千羽鶴を折る貿易大学の学生達



大槌町立安渡小学校で手渡す留学生

第8回総会

日 時：2010年9月12日(日)

会 場：NHK青山荘 出席者69名

会 員：170名

会 計：収入 3,480,934円 支出 3,608,063円

役 員：井村倫子理事が退任、日置陽子理事に就任(変更のみ)

派遣教師：清華大学 吉田明さん、タマサート大学 盛田真規子さん、
貿易大学 増本純子さん

'09年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：森郁子さん

講演会

講師：川本皓嗣氏（大手前大学学長）

演題：「日本の『国語』・『国文学』とナショナリズム」

「なぜ日本語と言わずに『国語』、日本文学でなく『国文学』という言い方をするのでしょうか。そこにはナショナリズムの匂いがあります」とのアカデミックな講演に、「このような視点でナショナリズムを考えたことがなく新鮮だった」とのコメントが寄せられた。



熱心に聴く会員

イベント

- ・留学生と高尾山登山 7月31日 12名参加
- ・タマサート大学短期留学生との交流会 於：JICA地球広場
32名参加 6組の1メイトが対面
- ・秋の1メイト交流会 11月21日 於：三井住友海上研修所 28名参加
外国に住むと自国への多様な視点の気づきがある
- ・新春交流会 2011年2月5日 於：JICA地球ひろば 67名参加
多文化共生－日本の、アジアのこれから－「マスメディアを通して得ていた情報は必ずしも正しいとは言えず、実際に見聞することが必要」
- ・大槌町でボランティア活動 6月4～5日 中国とベトナムからの留学生12名を含む32名参加。4日は漁港での瓦礫撤去や、避難場所での傾聴など、実際の臭いや光景・風景に身を置き、多国籍老若男女が同じ風を分かち合い心に沁みこませた



5日は、安渡小学校で金井優佳さんのコンサート 会場は地元の被災者とながら和やか心温まる場となりベトナムの学生が折ってくれた千羽鶴も児童へしっかりと手渡され、力強く飛び立った

- ・清華大学読後感想文コンテスト実施 3月の大震災の影響で訪問は中止清華大学創立100周年記念の第5回読後感想文コンテストに大阪コミュニティー財団より10万円の助成金

・タマサート大学対象『サルと人と森』の読后感想文コンテストに対して、パン・パシフィック・ファンデーションより15万円の助成金

■アジ風と私

今の私はアジ風があってこそ

ダム・ホアン・ザン 貿易大学卒



中央が筆者

ハノイ貿易大で「アジアの新しい風」と出会い、派遣教師の増本純子先生やIメイトの森郁子さん夫婦、そしてアジ風会員の本間明子さん、坂巻延子さんとの温かい関係が今もずっと続いている事は私の大切な宝物です。

増本先生は生徒一人一人としっかり会話し、人情味があり、声も姿も美しいすばらしい

先生で、日本語クラブはいつも熱気に満ちていました。それに加えて、Iメイトの活動を通して、森さんと日本語で交流していただき、おかげ様で、私は日本語にどんどん引き込まれていきました。日本で勉強したいと強く願うようになり、とうとう念願叶って大阪の大学に留学しました。そして東京の交流会にも参加できました。ベトナムに帰国した後、アジ風の詩歌朗読コンテストで2位になったうれしさも昨日の事のように覚えています。

今年（2018年）4月には私の結婚式にはるばる日本から増本先生、森さん、本間さんが出席して下さり、本当に夢のようでした。前日から当日へと続くベトナムの結婚伝統行事や披露宴にも参加して下さり、その和服姿はお祝いに花を添えてくれました。一生忘れません。

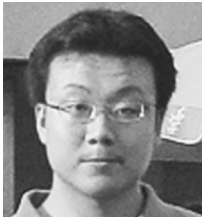
アジ風の皆さんから受けた恩を知り、皆さんのお幸せを祈りながら妻と力をあわせて精進したいと思います。

（註：在ハノイ 日系企業勤務〔人材開発担当〕、教育センター経営）

日本の復興を信じています

伝えたい思いあふれて

(2011年 3月)



郭涵宇さん（中国）⇒園木宏志さん

（3月18日）先生のメールを読んで、先生とご家族は「幸いにも地震の災害に遭いませんでした」、私もちょっと安心しましたが、今度の「東北地方、太平洋沖大地震」はかなり大きな損失をもたらしました。大津波も火事も核燃料漏れもたくさんの深刻な問題を起こりました。最近私はずっと注目しています。中国だけではなく、世界の国々もその大震災を注目して、日本人を支援しています。例えば、先週の中国とヨーロッパのたくさんのサッカー試合の前に、全員は黒い喪章を腕につけて、黙祷をささげて、「日本頑張れ、私たちは君たちと共にいる」などのスローガンを掲げています。その活動を通して、表現したことは「愛は無国境」だと思っています。それから、先生のメールで言った地震は1960年5月チリのマグニチュード9・5の大地震ですね。その地震は20世紀の一番大きな大津波を起こりました。日本は地理位置の原因で、「地震王国」と呼ばれています。その一方で、地震についての研究は他の国より、一歩先を行くといつてよい。（この後、地理が好きだと言う郭涵宇君は「中国の地震とその被害について」の解説が長文であった）。

園木さんから—この難局を乗り越えるには全国民が全力を尽くすのみです。全世界からの援助の手に感謝します。

大槌町へボランティア活動

(2011年 6月)

王锡铖（清華大学→早稲田大学留学）



最初バスで被災地現場に着いたところに、「三ヶ月経ってもこれか」と衝撃を受けました。「世界で一番の日本の自動車もぐしゃぐしゃになっていて、こんな大自然の前で自分に何ができるのか、むしろ何もできないじゃないかな」というふうに考えていたのです。

そして安渡小学校で掃除したり被災者と交流したりして、色々人生の知恵も聞かせていただいたりコンサートで美しい音楽も楽しんだりして、充実な二日間過ごすことができたと言えるでしょう。「人間はこういうものじゃない。自然と戦ったり、自分を反省したりして、戦っては反省して、反省しては戦ってという生活を続けてきたんじゃないかな」というふうに帰り道で考え直したの

です。人間、自分自身の持っている力を小さくしちゃダメです。こう考えると、本当に頑張らなければならないのは私たちではないでしょうか。「頑張った」と現地の被災者に言うとしての立場も資格もない私は、深夜一人で夜空を見上げながら「今どうなっているのかな」と想像していて、一つ一つの顔を思い浮かべるだけなのです。 Please live a better life.

南相馬市へボランティア

(2012年4月)

福島を訪問して

崔 振宇（北京第二外国語大学→大阪大学大学院）



今回は福島を訪問し、被災地の方々と交流できて大変よかった。仮設住宅で避難している方々から避難生活の状況と心情を聞いて、早く家に帰りたいという気持ちが切実に分った。また、福島県と南相馬市の被災状況と原発事故の影響、政府の対応を聞いて、復興が直面している複雑な状況と厳しい現実を理解できた。

特に原発事故の影響が続いており、事態収拾を図る際も続出している事故がもたらした不安、また補償が欠如していることがわかり、復興の進め方、原発の是非に関して考えさせられるきっかけになった。新地小学校への訪問で、勉学環境と設備が整っており、震災の影響が落ちていっている一方で、心のケアがまだ必要であることも分った。

一方、人々の笑顔も見られたので一安心した。仮設住宅の方から励ましの言葉をいただき、とても感謝している。

年齢を問わず、性別を問わず

ブイ・ティ・ハン（貿易大学→一橋大学）



誰でも同じくフルサトを丁寧に心の中に置いてあることを今回のボランティアを通じて強く感じました。天災に人災を重ねて、福島市民がやむを得ず、自分のフルサトから去って行きました。特に年配の方々は生まれ育った場所から切斷され、仮設住宅地で人生の黄昏を過ごしていて、再び戻れる日が遠くなる一方です。このような心の傷は一番治りにくい病なのだと痛感しました。

ただし、小学校を訪問し、子供の笑顔を見て、少し心が暖かくなりました。大人がどのようにその笑顔を見守るかが今後もっと重要になるでしょう。私は皆様のご健勝をお祈りしております。

アジ風のお陰で、いろいろ貴重な経験ができて、どうもありがとうございました。

日本の思いやり文化はアジ風に通じる

(2011年7月1日～2012年6月30日)

第9回総会

日 時：2011年9月4日（日）

会 場：NHK青山荘 出席者76名

会 員：179名

会 計：収入 4,135,032円 支出 4,088,398円

役 員：林雄二郎理事長が辞任、上高子理事が理事長代行に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 磐村文乃さん、タマサート大学 三角友子さん、
貿易大学 藤原美代子さん

'10年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー：杉本茂樹さん

講演会

講師：中村伊知哉氏（慶応大学教授）

演題：「外国の若者を魅了する日本のポップカルチャー」

要約：日本のポップカルチャーは「クール（かっこいい）」と評価され、
ようやく日本人は「外から見る日本」を意識し始めた。今や宅急便
や給食に至るサービスシステムなど日本人のライフスタイルに世界
の目が注がれ、インターネットや携帯で日本の若者が発信する生活
情報が、ポップパワーとして世界に浸透しつつある。

林雄二郎前理事長ご逝去



アジ風創設以来前年度まで理事長を勤めていた林雄二郎先生（アジ風の精神的支柱）が11月29日に突然逝去されました。

アジ風の設立を知って快く理事長をお引き受けくださり、活動を大いに助けて下さいました。個人的にも少しも偉ぶらず私たちに友人のように接して下さいました。前夜までご家族と話されて

いて、翌朝眠るように満95歳の生涯を閉じられました。アジア風一同、林先生に深く感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

イベント

- ・ **秋のIメイト交流会** 10月23日 於：三井住友海上渋谷研修所
28名出席 「私のIメイト交流と学びは日本の思いやり文化」
- ・ **タマサート大学へ洪水見舞金** 75名より合計465,000円が集まった
10月中旬に発生した洪水で失った教科書の購入などに充てると、教養学部長から礼状が届いた
- ・ **西日本地区初回交流会** 2012年1月9日 於：JICA兵庫国際センター
神戸・九州・名古屋の留学生12名を含む27名出席
東日本大震災後、西日本地区への留学生が増加する状況に対応するため2011年秋に「留学生支援西日本事務局」が設立される



第1回西日本地区交流会

- ・ **NHKラジオ深夜便** 1月9日深夜に上高子理事長代行が出演
アジ風理念に共感して18名が入会
- ・ **新春交流会** 1月22日 於：JICA地球広場 74名出席
日本語学習者が日本語を選択する動機⇒ポップカルチャーやサブカルチャーへの興味から、やがて日本の伝統文化や国民性の学びに発展していく
- ・ **タマサート大学** 環境問題を考える作文コンクールの表彰式が3月15日留学生報告会で行われ、上位2名の報奨は日本への短期留学
- ・ **被災地再訪の旅** 4月11～12日 30名（内留学生7名）が参加
傾聴ボランティア、のど自慢大会、ヘアカット、写経などで交流。留学生が簡単な中国語とベトナム語のレッスンをして喜ばれる



大槌町安渡小学校講堂で踊りの輪

- ・清華大学訪問 5月18日 2年ぶりの訪問に7名参加
メインテーマ「日中友好」にそって、黒板には「一衣帯水以風結誼」（中国と日本は海を隔てているが、風（アジ風）が二つの国の友好を結んでいる）と歓迎の書 読後感想文コンテスト実施



■アジ風と私

アジ風でバタフライ効果

グー・ティ・ビックホン 貿易大学卒



右端が筆者

些細なことが大きな差に「バタフライ効果」という概念はご存知でしょうか。今日の小さい行動でも今後の人生を激変させると信じております。

私は、高校から日本語を勉強し始めましたが、大学1年生の時でも自信を持って日本語で喋ってみる勇気がありませんでした。「外国人と友達になろう」と考える勇気もありませんでした。恥ずかしかったです。大学時代は

そのままで過ごしても良いのかなと思ったら、大学2年生の秋に、貿易大学日本語クラブとアジ風の皆さんに出会えました。

ボランティアでわざわざ貿易大学に来られた増本純子先生、井上光恵先生から注がれた日本の文化への愛情は、今でも忘れないアジ風の初印象です。そして、7年間ずっと応援したり、相談に乗ったりしてくださっている日本のお姉さんであるSunny（福田陽子）さん、日本のお父さんである中村一郎さんへも心より感謝しております。E-mailでの友達だけではなく、今日の私を支えてくださってる大切なリア友です。

私はIメイトを始めて7年経ちました。自分を変えようとその日の小さい決断が、現在の私をもたらしました。アジ風とあなたはどうか？良い出会いと良いバタフライ効果ができますように。

（註：在東京 日本企業に勤務・賛助会員）

善意に満ちた真剣な心の交流を源に

(2012年7月1日～2013年6月30日)

第10回総会

日 時：2012年8月25日（土）

会 場：NHK青山荘 出席者85名

会 員：197名

会 計：収入 4,271,499円 支出 4,053,981円

役 員：藤原玲子理事が退任 林望理事長、田仲和彦・古海正子理事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 磐村文乃さん、貿易大学 井上光恵さん

'11年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー：藤原ひさ子さん

講演会

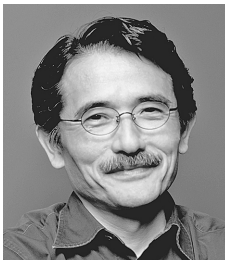
講師：林 望氏 （小説家）

演題：「父雄二郎を語る」

要約：世のため、人のための人生だった前理事長の林雄二郎氏。アジアの国からの留学生や研究者を支援し、今日のNPOの元となるフィランソロピーを初めて日本に紹介し実践した。「アジアの新しい風」との縁もそこにあった。

もっとも大切なことのために……

理事長就任のご挨拶に代えて……



日本語も充分にできなかった医学生魯迅に、解剖学の藤野厳九郎先生は講義を筆記させ丁寧に添削訂正して返してくれた。先生の真摯で懇意な態度に大変に感激して魯迅は『藤野先生』という有名なエッセイを著しています。前理事長、父林雄二郎にはインドネシアバンドンの下町で華僑のオヤジさんから得た教訓を記した自叙伝『日本の繁栄とはなんであったか』があります。国際交流というのは、むしろこういう無名の人たちの、善意に満ちた真剣な心の交流にこそ、そのほんとうの力が宿っているのだということを、これらのエピソードがや読み取ることができます。いわば、「アジアの新しい風」の活動は、この藤野先生であり、華僑のオヤジさんであります。そしてそれが、政治の問題とか、国家間の軋轢とかを越えて、もっと深いところで手強い力となる

のだと私は信じます。理事長としては甚だ力不足ですが、こうした善意の運動を少しでもお手伝いできればと思っております。

(アジ風新聞37号より抜粋)

イベント

- ・ **秋のIメイト交流会** 11月18日 於：JICA地球広場 38名参加
Iメイト交流の成功と失敗の体験談 日本語添削教室は参加者にとって貴重な勉強の場
- ・ **西日本地区Iメイト交流会**
2013年1月14日 於：JICA関西
35名参加 メール交流の意義は1対1の交流を深めたい 書き初め習字大会を実施 人と防災未来センターを見学
- ・ **新春交流会** 2月9日 於：JICA地球広場 64名参加
ここまで発展できた感謝と今後の抱負—当たり前とを見直す「気づき」の機会でありたい—上理事の開会挨拶



- ・ **南相馬視察旅行** 3月3日 7名参加
協働するNPO法人「森びとプロジェクト」の「希望の森づくり」シンポジウムに出席
- ・ **貿易大学訪問** 3月28～31日 16名参加
日本とベトナムの外交関係樹立40周年を記念した「日越友好記念事業」として「日本の詩歌・口語自由詩の暗誦と感想の発表コンテスト」を日本語学部と共催。優勝者チャン・ゴック・チャンさんには日本招待旅行の副賞



- ・ **春のIメイト交流会** 4月7日 於：JICA地球広場 31名参加
日本語添削教室 多文化共生を学ぶ事例研究
- ・ **清華大学訪問** 5月16～19日 11名参加
創設10周年記念読後感想文コンテストの表彰式及び、元Iメイト学生13名と

- 集いを持つ。正に国を超える友好の場であった
- ・日経新聞の取材 6月17日（月）朝刊文化面に上高子理事の「日本語添削メル友の輪」が掲載された。22名の読者が入会した

■アジ風と私

Iメイトの最初の挨拶は「おじいさんでごめんなさい」

チャン・マイ・フォン 貿易大学卒



大学二年生のとき、初めて日本語を学んで、会話も作文もあまり出来ていなかった私は「アジアの新しい風」と出会って、小田晋作さんとIメイトになりました。そこからは新しい風といい思い出がいっぱい出来ました。

初めて小田さんから頂いたのは「Nice to meet you」という件名のお便りです。「おじいさんでごめんなさい」と小田さんは心配していたようですが、あまり日本語が出来ていないそのときの私は、年配の方のほうが若者に対して優しく、何でも親切に教えてくれるはずだと思い、良かったと思いました。

今、小田さんとのメールをもう一度見たら、「何これ、日本語？」と思うほど文法も言葉もぐちゃぐちゃの文章ばかりでした。それでもやはり思っていたとおり、優しいおじいさんの小田さんが私の変な日本語を一つ一つ直していただきましたから、日本語もどんどん書けるようになりましたし、日本人の考え方も少しずつ分かるようになったと思います。

あれからもう8年たちました。2012年に日本に留学して、小田さんに初めてお会いできたのみならず、他の新しい風のいろいろな方にもお会いでき、仲間として認めていただきました。帰国後も日本でお会いできたその方々との連絡を取り続け、結婚式にもご出席いただいたし、結婚式のお祝いや、出産のお祝いまでいただきました。新しい風のおかげで、私の世界は本当に広がっています。

現在、ベトナムでは日本語学習者がどんどん増えてきましたが、正しく、きれいな日本語が使える人は多くはありません。日本人の文化がきちんと理解している人も少ないです。私に親切にサポートして下さった新しい風に、是非その人たちにも手を差し伸べていただければと思っています。

（註：在ハノイ 日本語学校日本語講師）

今年はアジアの新しい風創設10周年

(2013年7月1日～2014年6月30日)

アジ風創設10周年記念PR用DVDの完成

第11回総会

日 時：2013年9月1日（日）

会 場：NHK青山荘 出席者83名

会 員：238名

会 計：収入 4,901,933円 支出 4,754,200円

役 員：今井進理事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 宮崎いずみさん、

貿易大学 井上光恵さん

'12年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：

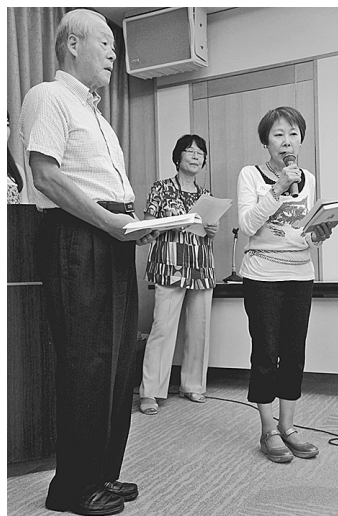
谷口由紀子さん

皆勤賞（'03年の総会から11回、全総会に
出席）：坂上勝朗さん、西川恵美子さん

精勤賞（'03年の総会から殆どに出席）：

上野重喜さん、小田晋作さん、

清水久美子さん、高橋雪子さん



皆勤賞の表彰式（坂上勝朗さん、西川恵美子さん）

十周年の総会に寄せて

理事長 林 望

「アジアの新しい風」の十周年おめでとうございます。この間、Iメイトの数もずいぶん多くなり、アジア諸国との関係を深めるために、地味ながら着実な力を発揮してきたと思います。しかるに、こうした活動は、決して「何かをやってやる」という意識であってはずらず、人のために尽くすことは、畢竟自分のためなのだという謙虚な心がけでなくてははいけません。そういう意味での、Iメイトの活動のますますの発展を祈ります。

講演会

講師：大石芳野氏

(社会派ドキュメンタリー写真家)

演題：「アジアに生きる」

要約：大石さんは若いときからアジアを主に戦争や内乱、急速な社会の変容によって傷つき、苦しみながらも逞しく生きる人たち、更には東日本大震災で被災された方々の生きぬく姿を撮影した写真で説明しながら話されました。



イベント

- ・西日本地区 I メイト交流会 7月15日 於：イーグレ姫路 23名参加
- ・復興支援活動 10月5日～6日 於：福島県南相馬市NPO「つながっぺ南福島」仮設住宅訪問、鎮魂復興市民植樹祭に20名参加
- ・10周年記念シルクロード交流旅行 10月12日～19日 12名参加
- ・秋の I メイト交流会 11月17日
於：JICA地球広場 35名参加
「私の I メイト交流と学び」「日本語添削教室」、「多文化共生に学ぶ」解散後、「江戸博物館」と「小石川楽園」に分かれ見学
- ・西日本地区 I メイト交流会 2014年1月13日
於 JICA 関西 34名参加
「異文化交流の楽しさと課題」を主要テーマに充実した交流会「日本語指導と交流の注意点」「人と未来防災センター」を見学
- ・新春交流会 2月1日 於：JICA地球広場 62名参加
「留学生から見たグローバル時代に残したい日本のソフトパワー」というテーマで留学生のスピーチ・交流会のあと、ジブリ美術館見学とカラオケ、夕食コースに分かれて楽しみました



シルクロードの奥村さん



新春交流会の復興支援ソングを合唱する参加者

・日本の長寿を支える和食を学び地域の人々と交流

(YS市庭コミュニティ財団)

3月29日 桃三ふれあいの家・
かがやき亭 16名参加

・春のIメイト交流会 3月30日

お堀端の桜トンネル散策後、
於：JICA地球広場へ
41名参加「交流マナーを学ぶ」
感謝の表現の文化的違いや、異
性のIメイトとの交流マナーな
どから「気づき」の体得が目標

・清華大学訪問 5月15～16日 12名参加 読后感想文コンテストの表彰式、
林望理事長著『謹呈 源氏物語』の贈呈式

・足尾・ふるさとの森づくり植林事業 5月24日 20名参加



YS財団東島さん（左列中央）、厨房の皆
さんとアジ風の関係者で「お疲れ様！！」

■アジ風と私

留学中、辛い時に支えてくれるアジ風

宋 天鴻 清華大学卒



Iメイト交流から始まって、アジ風との付き合いはもう10年経った。はじめてIメイトの野村幸弘さんにメールを送る時、文法のことを気にしすぎて、書いては消して、なかなか送信ボタンを押せませんでした。しかし、野村さんの返信には日本語の誤用についての丁寧な説明ばかりで、日本語の文法や語彙について過剰訂正されたことはありませんでした。Iメイト交流をしていた時、野村さんはお仕事が忙しいにもかかわらず、定期的にメールのやりとりをしてくれて、日本文化についても色々で紹介してくれたので、Iメイト交流は私にとって大変有意義な日本語学習の経験でした。大学を卒業して、言語学の知識を深めるため、2012年の春に来日し、東京大学大学院に入学しました。来日してから、上高子さん、奥山寿子さんをはじめ、メンバーの皆さんはイベントでいつも親切に接してくれて、研究で落ち込んでいるときも、いつも励ましてくれています。そして、藤原ひさこさんから毎年年賀状をいただいて、年の初めから心が温まります。帰れる場所とっていいかどうか分からないですが、アジ風は私にとって外国で辛くなった時でも支えてくれる存在です。アジ風の皆さんに感謝しています。

(註：東京大学大学院 博士課程後期 学生会員)

更なる飛躍を目指して

(2014年7月1日～2015年6月30日)

アジ風奨学基金が上 篤・高子夫妻の寄付により創設

第12回総会

日 時：2014年9月15日（月）

会 場：NHK青山荘 出席者78名

会 員：242名

会 計：収入 9,226,004円 支出 8,402,901円

奨学金寄付 11,200,000円

役 員：上高子理事が事務局長を退任し理事長代行に、奥山寿子理事が事務局長に、中村一郎監事が辞任し理事に、石河庄一監事に就任(変更のみ)

派遣教師：清華大学 宮崎いずみさん、貿易大学 井上光恵さん

'13年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー：伊藤春雄さん

講演会

講師：田代 和生氏（慶応義塾大学名誉教授）

演題：「アジアに開かれていた江戸時代～鎖国ではなかった～」



かつての教科書では、日本の江戸時代は幕府の方針で外国との交流を断ち、長崎出島における僅かなオランダ貿易を除き、明治時代まで鎖国状態だったと書かれていた。しかし「鎖国」という言葉は、ケンペル著の「日本誌」の抄訳から生まれた19世紀の造語であり、現代の教科書にはその事が詳しく書かれている。対馬の宗

家にある膨大な古文書を解読したところ、釜山の10万坪もの敷地にあった「倭館」で、日本と朝鮮との外交・貿易・文化交流が盛んであったことが明らかになった。貿易品は日本からは銀貨や銅などの鉱産資源で、朝鮮からは中国産の生糸・絹織物や朝鮮人参などが輸入され、宗家はこの貿易で莫大な利益を得ていた。このため、宗家は、外交や貿易で重要な役割を果たす通詞（通訳）の人材を養成するため、1727年に10代の若者を中心とする通詞養成所を新設し、明治初期までこの外国語学校は存続していた。研究した対馬藩の倭館貿易を含め、江戸時代は「四つの口」

(長崎・対馬・薩摩・松前)といわれる貿易があり、それぞれの場所に残る古文書にはまだまだ解読されていない隠れた事実が多く埋もれていて、そこに限りないロマンが秘められている。

イベント

- ・ **和食を学ぶ会** (Y S市庭コミュニティ財団) 11月1日 留学生20名参加
- ・ **秋のIメイト交流会** 11月2日 於: JICA地球広場 45名参加
「Iメイト交流で学ぶ多文化共生」という大きなテーマの中の異文化、異世代間の交流の中で起こりうるハラスメントについて学んだ
- ・ **西日本地区交流会** 11月30日 於: 吹田市 24名参加
旧西尾家住宅(国の重要文化財)・アサヒビール吹田工場見学
- ・ **新春交流会** 2月14日 於: 神戸大学東京六甲クラブ 63名参加
「私の考えるグローバル人材」留学生のプレゼンテーション
- ・ **世田谷区助成事業** 2月15日 於: 鷗友学園 約90名参加
同上のプレゼンコンテストと鷗友学園関係者ほかとの交流会
- ・ **三国交流会(国際交流基金助成事業)** 3月7日～8日 於: 貿易大学
タマサート大学、貿易大学、アジ風会員26名、総勢57名が一堂に会し交流会を楽しんだ



貿易大学民族ダンス



着物姿でお茶を楽しむ

- ・ **西日本地区交流会** 4月12日 於: JICA関西 22名参加
「私の日本新発見」を留学生がスピーチ、「人と未来防災センター」を見学後、カラオケで盛り上がった
- ・ **異文化交流会** (Y S市庭コミュニティ財団) 4月25日 於: NHK青山荘
留学生のプレゼンテーション「留学生から見た日本発見」、午後はお楽しみ会として浜離宮恩賜公園、浅草を散策 40名参加



隅田川観光の写真

- ・清華大学訪問 5月16日 9名参加
「日本の口語自由詩の暗唱と感想の発表コンテスト」
- ・千年希望の丘植樹祭 於：宮城県岩沼市 5月29～30日 24名参加

■アジ風と私

私の人生に欠かせない日本語



ダオ・ティ・イェン 貿易大学卒

2013年アジ風主催の詩歌・口語自由・感想の発表コンテストに参加してはじめて、日本語で日本人とぺらぺら話すのは私が思ったほど難しくないことに気が付きました。その時からもう6年があっという間に経ちました。日本留学中の2014年12月には初めてIメイト・宮崎いずみさんのご実家を訪問して、昼食を楽しめました。

また、宮崎さんが2016年7月にご家族と一緒にベトナムを尋ねてくださったことは心の底の忘れがたい記念となってきました。私にとって、宮崎さんとの付き合いは普段のIメイト交流の境を越え、両方が自分の気持ちを隠さずに率直に様々な問題について議論したり、相手の家族のことをお互いに共感するようになってきました。

今ベトナム教育訓練省・国際教育協力局・国際教育コンサルタンシーセンターで教育カウンセラーとして活躍しています。私の主な任務は留学先選択・入試手続きプロセス等の日本留学促進活動を進めることです。日本の大学との会議中は日本語の通訳者として出席することが多いです。喜ばしいことに、今年3月から外国の政府の奨学金プログラムの募集という新任務を受け継ぎ始めました。目上の方々は私が仕事に取り組んで活躍していく展望を予測されたからこそこの重大な任務を私に任せることにしたかもしれません。確かに、日本語の勉強は私の人生には後悔するはずがないことの一つです。

認定NPO法人として再認定されました

(2015年7月1日～2016年6月30日)

初回の認定から5年経過。国税庁から東京都に管轄が移管された

第13回総会

日 時：2015年9月12日（土）

会 場：NHK青山荘 出席者73名

会 員：225名

会 計（除奨学金収支）：収入 6,735,993円 支出 6,710,449円

役 員：林望理事長、新井雅夫理事、今井進理事が辞任（変更のみ）

新井雅夫理事退任挨拶



2003年8月23日東京の気温が34℃を記録した暑い日にアジ風の設立総会が行われてから15年になりました。初めて日本にフィランソロピーを紹介し、日本のNPO発足に尽力された日本NPO学会会長で、アジ風初代理事長に就任された林雄二郎先生が創立を祝しNPOとアジアの国々との多文化共生について分かり易く講演されました。アジ

風は、それまで上さんと私が勤めていた伊藤謝恩育英財団の給付制奨学金の対象にアジアからの留学生が外れたのを契機に現理事の上さんによって創立され、私も喜んで参加しました。

アジ風では、発足と同時に私のIメイトになった二外李丹さんとはIメイト終了後も交流が続き、現在北京の出版社で日本の児童書などの翻訳を担当する傍ら一昨年は結婚のこと、昨年は男子出産のことを写真とともに知らせてきました。私にとって長年のサラリーマン人生の後にどのような活動で社会貢献ができるかと考えていた矢先にアジアの新しい風に参加できたことが正に相応しい選択でした。それから15年の現在までアジ風が私の生甲斐となっていることに感謝しています。

派遣教師：清華大学 宮崎いずみさん、貿易大学 那須英夫さん

'14年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：岩切祐樹さん

アジ風奨学金：第一号受給生はクスマー・タイニコンさん

タマサート大学日本語学部を卒業、お茶の水女子大学研究生として入学（※P54参照）

講演会

講師：赤阪清隆氏(元国連事務次長 フォーリン・プレスセンター理事長)

演題：「アジアの世紀がくる。何をやるかというのか」

2050年の世界予測は、楽観的な英『エコノミスト』誌も、悲観的な経団連でも、キーワードは、V字復活するであろう「中国を含むアジアの世紀」である。2018年には中国経済が米国を追い抜くという予測すらある。大英帝国には議会制度や産業革命やスポーツの遺産などがあり、米国の遺産には自由と平等や民主主義や宇宙開発がある。アジアの世紀にはどのような遺産が残せるか、が問われる。

アジアの価値は家族や謙譲や自然との共生などポジティブで普遍性のある要素が多い。西洋文明が覇権を取れた要因が揺らいでおり、今や西洋世界を代表する米国さえ内向きになっているので、アジアからのアプローチが可能であり、日本が果たせる役割は十分ある。ロバート・スキデルスキー著『じゅうぶん豊かで貧しい社会』に書かれる「飽くなき欲望」に対抗する「良い暮らし」の項目には、アジアに共通の要素が挙げられている。世界がアジアからの発信とその情報を待っている。

イベント

- ・ **秋のIメイト交流会** 11月7日 於：早稲田奉仕園 74名参加
一部 前理事長林望氏の講演「私の留学時代」、二部 留学がテーマのパネルディスカッション
- ・ **西日本地区秋の交流会** 11月28日 於：神戸 過去最高の33名参加
「布引の滝」「竹中大工道具館」「南京町」「メリケンパーク」



西日本地区秋の交流会、布引の滝

- ・ **新春交流会** 2月13日 於：JICA地球広場 57名参加
「私が見た日本人像」留学生のプレゼンテーション
- ・ **世田谷区助成事業** 2月14日 於：昭和女子大学 55名参加
同上のプレゼンコンテストと昭和女子大と鷗友学園との交流会

- ・三国交流会（国際交流基金助成事業） 2月18～20日 於：タマサート大学

貿易大学、タマサート大学とアジ風会員、総勢103名が一堂に会し、交流会を楽しんだ

- ・春のIメイト交流会 4月17日

於：NHK青山荘 54名参加
テーマは「インドネシアとの交流開始に備えて」パジャジャラン大学との交流開始決定の報告、前インドネシア全権特命大使・鹿取克章氏による講演、その後

パネルディスカッション、「就活支援セミナー」エントリーシートの書き方指導や模擬面接など実施

- ・清華大学訪問 5月19～22日 11名参加

「日本の口語自由詩の暗誦と感想の発表コンテスト」

- ・千年希望の丘植樹祭 於：宮城県岩沼市 5月28～29日 19名参加

- ・西日本地区交流会 6月18日 於：JICA関西 27名参加

「留学生とのIメイト交流の進め方－邪魔にならず疎遠にならない方法－」終了後「就活支援セミナー」を実施



三国交流、音楽に合わせて踊りだす参加者

アジ風と私

出合いの場、アジ風



テッパラット・シワポーン タマサート大学卒

わたしがアジ風に出会ったのは、大学3年生の時でした。あの時どうしても日本語を練習したくて、タサニー先生の紹介で参加させていただきました。わたしにとって、アジ風は出合いの場です。この「アジ風」ではわたしはたくさんの方々に出会いました。わたしの日本語の先生になってくださったIメイトの芦田順子さんをはじめ、ホームステイの時にお世話になった日本の母古海正子さん、学年が離れたタマサート大学の後輩たちなどには、アジ風に出会わなければ、出会いはなかったでしょう。

ただ、この「出会い」は人との出会いだけではなく、アジ風の活動を通してたくさんの経験にも出会いました。交流会で日本文化への理解。植樹会で学んだ自然の大事さ。東大震災被災地で気づいた人の絆。アジ風に出会わなければ、こんなたくさんの経験を得られないかもしれません。

わたしは、今社会人になって日々忙しさと戦っていますが、アジ風はどんなに離れても忙しくてもいつかまた戻りたくなる場所です。

（註：在大阪 東京学芸大学大学院卒 日本企業勤務 賛助会員）

パジャジャラン大学と交流を開始しました

(2016年7月1日～2017年6月30日)

日本語学部とIメイト交流の協定書を交わす

第14回総会

日 時：2016年9月11日（日）

会 場：NHK青山荘 出席者79名

会 員：226名

会 計（除奨学金収支）：収入 5,776,513円 支出 5,002,245円

役 員：加納啓良理事長、武田高理事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 日下部龍太さん、
貿易大学 安達英子さん、
パジャジャラン大学 斉藤充弘さん

'15年度Iメイト・オブ・ザ・イヤー：松野芳夫さん
アジア奨学金第二号受給生は王鶴さん：清華大学を卒業、一橋大学大学院商学研究科研究生として修士課程入学を目指す（※P42参照）



パジャジャラン大学交流開始

講演会

講師：加納啓良 理事長

演題：「漢字と米～東南アジアに学ぶ」

1948年東京の府中に生まれた。東京大学経済学部を卒業し、アジア経済研究所に勤め、その後退官まで約30年間、東大の東洋文化研究所で仕事をした。私が出かけたアジアの現地での経験に関連して二つの話をしたい。

まだ大学生だった時、東南アジアへ貧乏旅行にでかけた。フィリピンを皮切りにシンガポール、マレー半島を北行し、タイからカンボジアを回った。カンボジアでアンコールワットを訪れようと現地の宿に着いたが英語が通じない。切羽詰まってその華人と漢文で筆談を試みると完璧に通じた。その時、「漢字」という歴史の長い文字は、対話の武器として、同時に我々を結ぶ絆として実に大切なものなのということを知った。

かつてインドネシアで暮らしたとき、毎朝食にお世辞にも旨くないパ



ンが出て閉口したことがある。現地では、日本人はパン食民族だと信じられていて、パン提供は宿側の気遣いだった。当時、コメの大生産国たるインドネシアはパンの消費も少なく、小麦の輸入もわずかだった。ところがその小麦輸入が急増している。パン食が増えたのではなく、インスタント麺の爆発的な普及によるものだ。最近、小麦輸入がついに年間600万トンとなり、なんと日本の輸入量500万トンを上回った。今やインドネシアにも食料自給の課題が出現し、国の食料安全保障を考えるべき時期である。我々日本人ももっとコメを食べてはいかがだろう。

イベント

- ・ **異文化交流会**「簡単な日本料理を作る」(Y S 市庭コミュニティ財団)
11月5日 42名参加
- ・ **秋のIメイト交流会** 11月5日 東京江戸博物館見学後、於：墨田区公民館
56名参加 「Iメイト交流の通信手段」についてグループ・ディスカッション
- ・ **西日本地区秋の交流会** 11月26日 27名参加 神戸の震災からの復興と街づくりの歩み「外国人旧居留地探訪」「竹中大工道具館」
- ・ **新春交流会** 2月11日 於：昭和女子大学 73名参加
プレゼンテーションコンテスト「留学先から見た母国」
- ・ **世田谷区助成事業** 2月12日 於：昭和女子大学 114名参加
同上のプレゼンコンテストと昭和女子大と鷗友学園との交流会、海外日本語教育レポート(清華大学・日下部先生、バジャジャラン大学・斉藤先生)
- ・ **春のIメイト交流会** 4月15日 於：NHK青山荘 45名参加
「よりよいIメイト交流を目指して」「日本語添削と通信手段」
分科会としてJAL工場見学組と国立科学博物館から谷中散策組に分かれ活動、最後には有志でカラオケ



JAL工場

- ・ **清華大学訪問** 5月19～21日 12名参加
「第3回日本の口語自由詩の暗誦と感想の発表コンテスト」
- ・ **足尾・ふるさとの森づくりツアー** 5月20日 20名参加

- ・西日本交流会 6月17日 於：兵庫国際交流館 25名参加
「日本から見たわが祖国」というテーマでディスカッション、「就活セミナー」を実施後、白鶴酒造資料館、菊正酒造記念館を見学



灘の酒造見学

アジ風と私

私はアジ風に守られた旅の鳥

王 鶴 清華大卒



私はアジアの新しい風に乗った鶴です。長い旅の途上に、自分の力で飛ばないといけませんが、時々この風の力を借りて気楽に滑空することができます。

もちろん奨学金や間借りなどのヘルプも大変助かりましたが、さらに貴重なのは、会員の方々と交流を通じて、日本語で話しても、自分が人間であり、相手も人間であることを意識させられたことです。というのは、以前は人の話を「聴解」、自分の話を「会話の練習」として扱っていたのに対して、今は言葉がお互いの心に響くものだと感じています。いつ、なぜ気づいたかと振り返ってみると、やはりアジ風の活動で、声を出せば必ず耳を貸してくれる皆さんのおかげだと思います。おかしい文を作っても、言葉に詰まっても、相手が精一杯に自分を理解しようってくれました。「間違っても大丈夫」と、私は優しく守られた環境で成長してきたのです。

就活の面接で、一番頑張ったことを聞かれたとき、ほかの学生は何年間ずっとサッカーをやっていたなどと答えていましたが、飽きがちな自分は何年間もやり続けてきたことあるだろうかと吟味したら、そういえばアジ風に参加してからもう5年たったのだとハッとしました。

旅鳥を 飛ばせアジ風 空高く

(註：第二回奨学生 一橋大学大学院生 学生会員)

日本で五か国交流会を開催

(2017年7月1日～2018年6月30日)

交流四校の先生方をお招きした

第15回総会

日 時：2017年9月3日（日）

会 場：主婦会館 出席者56名

会 員：232名

会 計（除奨学金収支）：収入 4,074,750円 支出 4,814,321円

役 員：田仲和彦理事が辞任、石河庄一監事が辞任し理事に、大橋典子監事に就任（変更のみ）

派遣教師：清華大学 日下部龍太さん

'16年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー：鈴木一美さん

アジ風奨学金第三号受給生：王雋淇さん 清華大学を卒業、一橋大学大学院商学研究科研究生として入学

講演会

講師：段 躍中 氏（日本僑報社編集長）

演題：「永遠の隣人－日本と中国がお互いに理解できるように」



私が天安門事件後に訪日してからの26年間どんな行動をしてきたかを、①書籍の出版、②日本語作文コンクールの主催、③中国語サークル「漢語角」創設、④翻訳者育成、⑤提言に分けてお話ししたい。

来日した33才の時「日本語零、日本円零、日本人脈零」からスタートし、日本語を勉強する方法として、新聞投書を10年間で200本出稿して編集者に添削してもらった。その後、駒澤大学で修士、新潟大学で博士号を取得。しかし、自分はジャーナリズムが大好きなことから、日中相互理解のプラスになる書籍を刊行するため日本僑報社を作った。処女作は日本で活躍する中国人1万人のデータを載せた『在日中国人大全』。

2005年から日本語作文コンクールを主催。中国の若者に日本のファンになってもらいたいと思い、最優秀賞受賞者を日本大使賞として1週間日本に招待している。今年も4100人が応募してきており、中国の若者の憧れのイベントの1つになっている。13年間の応募者は累計3万7千人

を超えた。

2007年から中国語による青空教室として日曜中国語広場「漢語角(コーナー)」を池袋に創設し、この8月で500回の交流会を行っている。これまで延べ2万人の参加があり、メディアにも草の根交流会として取り上げられた。2008年には中国の良い本を日本に紹介するには優れた翻訳家が必要だと考え、日中翻訳学院を創設、約300人が受講して30人が本を出した。

こうして3つの零から力に変えたものは「企画力、行動力、発信力」であった。そして、最後に提言。中国人との交流にはWeChat(SNS)を利用すると良い。10億人の利用者がいる。我々はいつでも、誰でも、記録者になれるし、発信者にもなれる。また、日中両国の若者には悲しい歴史だけでなく、両国の友好の歴史を知る書籍をもっと読む運動を提案したい。

結びとして、国交正常化45周年、来年の平和友好条約締結40周年という記念すべき節目の年にアジアの新しい風の活動をもっと拡大して欲しい、私も両国の友好の歴史を作るのに行動して頑張っていきたい。

イベント

- ・ **架け橋留学生グループ 帰国前懇親会**開催 8月17日 於：目黒川のレストラン 16名参加
食事後、郷さくら美術館見学

- ・ **五か国交流会** 10月21日
於：オリンピック記念青少年センター 58名参加 清華大学、タマサート大学、貿易大学、パジャジャラン大学の先生を招きパネルディスカッション「アジア諸国の日本語教育事情」招待学生によるプレゼンテーション「私の日本語学習」



架け橋グループ、再会を約束して



五か国交流会

- ・五か国交流会・バス旅行 10月22日 箱根岡田美術館、小田原城見学
40名参加（足尾銅山植林が台風のため中止、急遽箱根へ変更）
- ・新春交流会 2月18日 於：昭和女子大学 75名参加
藤原作弥氏の講演、テーマは「李香蘭(山口淑子)に学ぶアジアと日本」
- ・春のIメイト交流会 4月28日 於：昭和女子大学 49名参加
パネルディスカッション「日本企業に働いて気づいたこと」
- ・「足尾・ふるさとの森づくり」 5月19日 13名参加
- ・貿易大学訪問旅行 5月26日～29日 於：ハノイ貿易大学 13名参加
食文化の交流、授業参観、川柳コンテスト、尺八・合唱 懇親会
- ・西日本地区交流会 6月2日 於：京都 22名参加
河村能楽堂「能楽おもしろ講座」 食後、京都御所見学
- ・Iメイト交流勉強会 6月24日 於：JICA地球広場 25名参加
日本語文法の初歩、日本語添削実例ワークショップ

アジア風と私

外交よりも心を動かす草の根交流

馮 峰 清華大学外文系東アジア言語・文化研究群責任者



アジアの新しい風創立15周年、心より祝賀の意を表させていただきます。

15年間は人間にたとえて言えば、赤ん坊から高校に入る、思考力も行動力も生命力の最も盛んな時期ではないかと考えられます。

一方、清華大学日本語学科が再スタートして、今年は20周年を迎えることになります。振り返ってみれば、清華大学の日本語学科がこの20年間歩んできた足跡には、ところどころ上高

子さんを始めとするアジアの方々のおかげで支援や思いやりが大きく見られます。Iメイトという連帯関係を結んで、ともに日中関係の曲折を経験してきました。清華大の日本語科にとっては、アジア風は自分の体の一部分のようにとらえられ、とても大切な存在と思っています。

このようなアジア風が存在しているからこそ、日本語という言葉や日本文化がより一層魅力的になり、日本人、日本という国も中国の若者の中でもイメージが明るくなるのでしょう。

国と国との交流の場合、草の根の交流は往々にして、政府間の交流よりも確実に人間の心を動かす力を持っていると固く信じております。と同時にアジア風の方々の長年にわたる、うまずたゆまずの努力と御愛顧にこの上ない関心と感謝の意を表したいと存じております。

（註：10月に清華大学引退予定）

写真で見る2017年度の活動

2018年2月18日 新春交流会



Uさんの歌声が響く



乾杯



藤原作弥氏のお話に万雷の拍手





司会のチャンさん

インドネシアからの
初めての留学生
ナディアさんと、
荒木さん



パネルディスカッションの司会とパネリストたち



グループディスカッション



江戸東京博物館で



法人会員 阪和興業(株)も参加

2018年5月19日 足尾銅山植樹



林業学の重鎮宮脇昭先生（車椅子）
とアジ風の留学生2人



こうやって植えるんだよ



足尾の山をバックに



植林を終えて



解散後も楽しく

2018年5月28日 ハノイ貿易大学訪問



トウーイ学部長からお土産
奥山事務局長



メイト学生のお宅に招待されて



食文化交流



懇親会



尺八演奏



川柳コンテスト1位受賞の
ジュエンさん





河村能楽堂で



鼓の持ち方を習う



能衣装を着けて。右は講師の河村先生



京都御所見学

2018年6月24日 I メイト交流勉強会



I メイト交流ガイダンス

I メイト交流学習



グループで添削研修



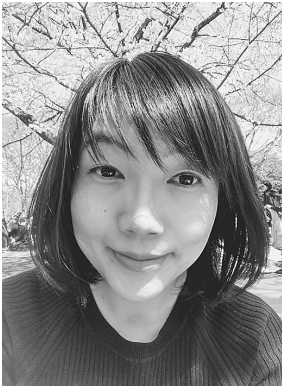
パネルディスカッション



日本語文法の基礎講座

2. アジ風と私、これまでとこれから

難波 美慧 北京第二外国語大学卒



100%日本語の世界に浸っている私にとっては、これまでのアジ風はアイデンティティを思い起こしてくれる存在だった。昨秋のIメイト交流会で都内名門女子校の生徒が、会場でベトナムや中国からの留学生のスピーチを聞いていたが、かなり高いレベルの英語を身につけている彼女らから“どうして英語ではなく日本語を勉強したの”と久しぶりに“新鮮な”質問を受け、15年前の自分を思い出した。

その頃と比べて、より気軽にいつでもどこでも言語の体験ができるようになったいま、アジ風が目指す“多文化共生”とは何かを考えた。

英語が世界共通語になって久しい世の中になり、英語を介して英語圏と世界の人々の相互理解が深まったはずなのに、貿易戦争・移民拒絶など起きているのはなぜ？ 共通言語は多文化共生の必須条件ではないことを意味していると捉えている。一方人間は言葉を通じて自分のありのままの感情を表現することで初めてお互いを理解しようとするきっかけが生まれるとも思っている。Iメイト学生からは「日本での出来事で嫌な気持ちになった、助けられて嬉しかった」など、会員からは「日本の良いことについて褒められて誇らしくなった、日本で嫌なことに遭遇した留学生を見て何とか状況を改善したい気持ちになった」という感情が日々生まれている。アジ風はその無数の生きている感情が合流するところだと思う。この貴重な無形資産をアジ風らしく活かすことに今後活動のヒントがあるのではないかと思う。そして、その感情を体験してきた元Iメイト学生の私たち自身にその答えがあるはずだ。

(註：旧姓張慧 日本人と結婚 家族会員 日本企業勤務 留学中はアジ風スタッフ)

福山 阿英 北京第二外国語大学卒

私が最初にアジ風とご縁をいただいたのはIメイト学生としてでした。

日本語学部の学生として、日々日本語の勉強に励んでいましたが、本物の日本人と会って日本語を使う機会はなかなかありませんでした。



そんな中、実際に日本の方とメールでやり取りをする機会をいただけたのはとてもありがたかったです。今思っても日本人との交流の第一歩を踏み出せるよう、チャンスをくださったアジ風に本当に感謝しています。

日本語の勉強においても、進路相談を含む心の支えにおいても、とことんアジ風のお世話になっていた私ですが、いつしかアジ風を応援する立場になりました。日本語を勉強し、アジ風と関わり

ながら成長し、現在日本で子育てしながら仕事を頑張っている一人として、少しでも後輩Iメイト学生たちに経験と勇気を分かち合うことができたらと思いながらアジ風の活動に参加させていただいています。でも実際は、中国だけでなく、アジア各国の後輩Iメイトたちと触れていると、いつも自分のほうがたくさん刺激を受けています。

これからのアジ風と私はどのように関わっていくのか、自分でも楽しみです。アジ風のテーマの一つである「異文化交流」が異文化でなくなる日に向かって、ともに歩んでいきたいと思っています。

(注：旧姓朴阿英 日本人と結婚 家族会員 日中同時通訳
留学中はアジ風スタッフ)

チャン・トゥ・チャン 貿易大中途退学→京都大卒



私は2016年、就職を機にアジ風の学生会員から正会員になりました。学生時代ずっとお世話になっていたアジ風に少しでも恩返ししたいからです。

2010年Iメイト交流から始め、2011年に来日してから東日本大震災の被害地へのボランティア、植樹祭、や日本文化体験など様々な貴重な経験ができました。他の留学生にも是非このようなことを体験してもらいたいです。因みに、2017年10月

私の妹も日本で日本語を勉強し始め、早速学生会員としてアジ風に入会させて頂きました。

アジ風のメンバーから見ると、年齢・世代・文化の違いが見られますが、それはまたアジ風の良いところだと感じています。普段、なかなか交流機会がない人達がここで意見交換ができ、一緒に活動に参加し、お

互いの文化や考え方を学び合っています。

このような有意義な活動をもっと増やしたい、日本人とアジア諸国を代表する留学生とお互いより深く理解頂きたいですが、アジ風の中核メンバーの年齢層が高いことは心配です（笑）。

今後、アジ風でもっと若いメンバーが中心になって活動できるように、まず自分がその中核の一員になりたいと思います。交流の輪を広げ、活動もっと工夫していきたいです。

（註：在東京 日本企業勤務 正会員）

クスマー・タイニコン タマサート大学卒



私はアジ風とつながって7年になります。大学生の時、Iメイトである城谷健一さんとメールでやり取りをしました。その後日本に来る機会があり、城谷さんと会うことができ、ご家族とも一緒に美味しい食事をしたりしました。また、アジ風の交流会にも参加し、日本語日本文化などをより深く接することができてとてもうれしかったです。たくさんの方と意見を交換したり自分の視点や考え方が広くなり自分成長にも助けました。ア

ジ風の奨学生となり、日本で困っているときにもアジ風の方々に助けていただいて本当に助かりました。私も、タイにいたらできるだけタイに来た外国人の留学生をサポートしようと思うようになりました。

私にとって日本の家族のような存在である城谷さんとアジ風の皆様とのつながりを続けようと思って、会員として活動を続けていきたいと考えています。文化をシェアしたり、意見などをいろんな方と交換したり、日本の学生さんや留学生など、そしていろんな方にのために、私たちの社会にのために、少しでも役に立つ活動をしたいです。アジ風にお供をさせていただいて活動していきたいと思っています。アジ風にありがとうございますと、よろしくお願いしますという言葉をお送りします。

（註：在沖縄 第一回アジ風奨学生 琉球大学大学院修士課程修了 正会員）

5年後、10年後を見据えて

事務局長 奥山 寿子

アジ風の強みは何か。アジアの平和への強い意志。会員の意識の高さ。そして日本に興味を持つ将来有望な若者たちの存在。この強みを生かして、アジ風ならではの活動を模索してきた15年である。

学生たちは何を求めてアジ風のIメイト交流を始めたのか。答えは日本語の上達と日本文化理解。日本で何がしたいかと尋ねてみると、アニメ、旅行、観光など。学生の興味も社会情勢もどんどん変わる現在において、アジ風が学生の要望をすべて満たすことは難しくなっている。

彼らにとってアジ風の会員は日本の親戚の叔父さんやおばさん（おじいさん？おばあさん？）というところだろうが、その会員たちは博識で、社会経験が豊富、ボランティア精神にあふれていて、アジアに対する温かいまなざしがある。正会員、家族会員を対象のアンケートを実施したが、私の期待通りの意欲を感じた。そんなアジ風の会員の思いは、若い学生たちに着実に伝わってきていると思う。

さて、これからのアジ風は何を目指していけばいいのだろうか。理事も会員も高齢になってきて、その一方で社会の変化はとても大きく、それに対応するのは正直苦しくなっている。山は高いほど登りがいがあると誰かが言ったそうだが、もう高い山には登れない。小さな山を少しずつ乗り越えていくしかないと思っている。実現可能な将来像を描いてみた。

まず、日本で就職をした元Iメイト学生が会員として登録し、活動の中心になってくれること。彼らの成長はアジ風の活動の結果であると思う。

次に、地方在住の会員にも、Iメイト交流だけではなく、アジ風の活動に参加しているという実感を持っていただきたい。今回インターネットを使った座談会を試みた。今後もIT機器を使って、そのような交流会ができるのではないかな。

またアンケートではいろいろな能力をお持ちで、意欲的にアジ風の活動を支えようと思っていらっしゃる会員が大勢いたことが分かった。この方がたの特技や意欲をどのように生かしていただくか、それは今後の事務局の課題であろう。

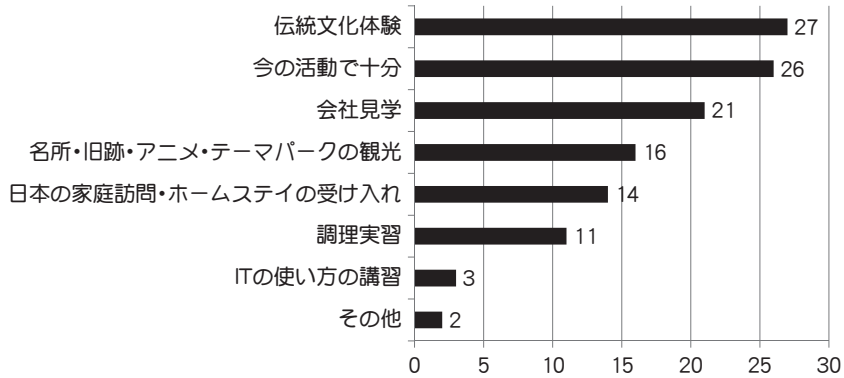
最後に、日本人に拘らず外国人にも入会を働きかけたい。元Iメイトはもちろんのこと、日本に定住している現役世代の外国人もアジ風の理念に賛同してくれる人は少なからずいるとおもう。彼等も同様に日本語学習から入って、日本に定着した先輩たちである。会員の構成が年齢や国籍を超えて多様化すると、アジアの平和を求めるNPOとしてもっと社会に認識されるのではないだろうか。

5年先、10年先までアジ風の精神が引き継がれ、異文化理解、多文化共生が進むようお願いしている。

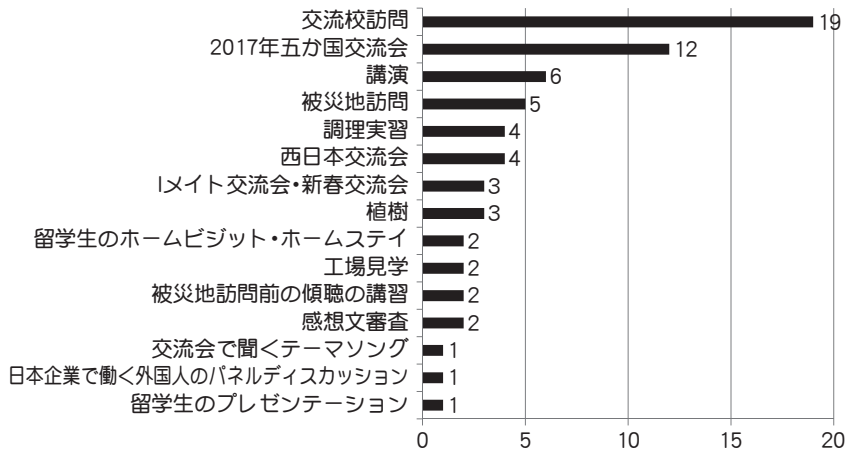
アンケート集計（抜粋）

正会員、家族会員 合計156名に対し、
アジ風の活動について実施した

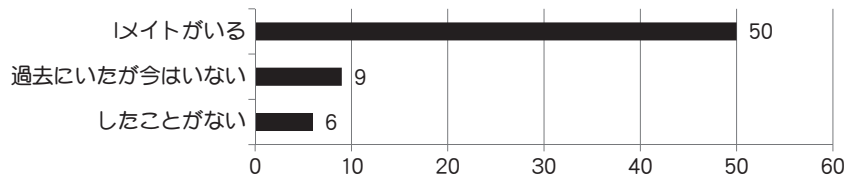
実施してほしいプログラム（単位＝人、複数回答）



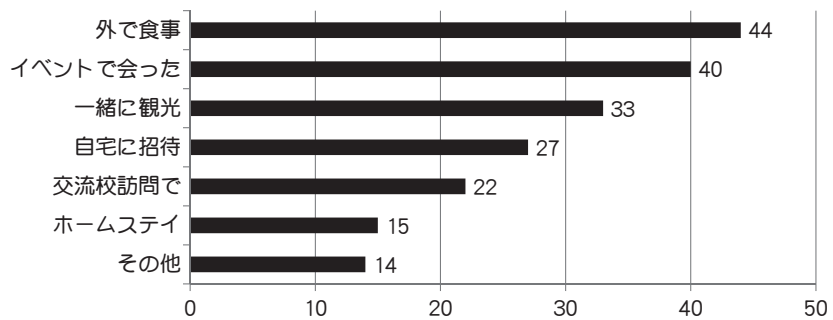
印象に残った企画（単位＝人、複数回答）



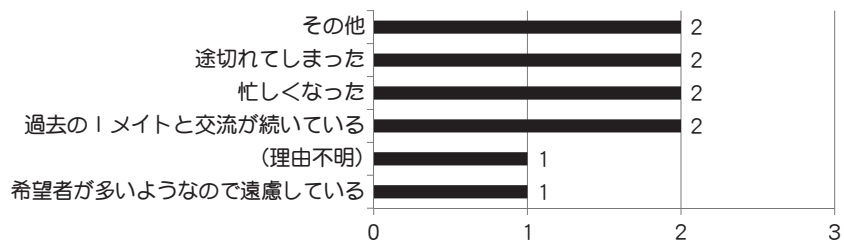
I メイト交流状況 (単位=人)



I メイトとの交流の内容 (単位=人、複数回答)



I メイト交流をやめた理由



●会員拡大のための提案

宣伝チラシの広範囲な配布。メディア（新聞テレビ・動画サイト）利用
日本人会員の同好会を結成
SNSを駆使して宣伝する
自分の所属団体でアジ風を宣伝する
大手新聞だけでなく地方新聞に取り上げてもらう
現役世代でも仕事をしながら活動ができることをPRするべき
マスコミ・TVに取り上げてもらう
キャンペーン用のチラシを会員に配布・活用してもらう
アジアの商工会議所にPRを働きかける（現役の駐在員を通じて）
イベントの時にマスコミを読んでメディアに宣伝してもらう
都内の大学にPR。大学との連携。
清華孫文塾と連携するのはどうか。
市町村の広報誌に掲載してもらう
他のNPOと連携し、日本人の知名度を高める。日本国内の留学生たちに働きかける
自分の名刺にアジ風会員と入れている
同じようか活動をしている団体と提携して相互にPRする。アジア諸国の年と日本の姉妹都市提携をしている都市が仲良くして相互にPRする。
各会員が友人知人に声がけする口コミ勧誘
老年の会員を研究対象とする老年学や社会学、健康心理学の学生さんに声をかける。IT技術に強い若者を取り込むことは必要。

●アジ風への提言 他

シニアが中核であってもいいが、日本人学生とアジアの4大学の学生同士が1メイトになるような「若い風」の導入策を検討してみてはどうか
家族会員を増やすための施策。小規模の1メイト同士の付き合いを奨励する。同好会を結成し、活動に留学生を入れる
セクハラ問題が生じないように継続して日本人会員に注意を喚起する
会員同士の交流の場を作る。SNSで会員の交流ツールがあってもいい。
イベント毎に会員に運営に関わってもらう。

会員同士のつながりを強化するグループを作る。地域のネットワークづくりをする。日本語学習会を継続的に行う。
文化交流や日本で知見が広まるアルバイトの見つけ方の指南。日本企業に就職するための具体的・実践的な助言。就職した学生の経験をフィードバックさせる
収益事業活動を検討する
Ｉメイト学生に登録のための必要条件を了解してもらう。
交流校は現状の4校にとどめる。各種イベントをきちんと継続していく。
交流大学の学生の要望を聞いて対応する。メディアの利用、添削や交流要項についての会員への啓蒙。
若い世代の取り込みが重要。会費を増額しても有償スタッフを入れる
相手国の文化をもっと知ること。他の支援を必要としている大学があるかも。指定校の見直し。派遣教師の復活。
一人一人へのきめ細かいサポートがありがたい。
若者、女性、学生の底辺拡大を図る
若い学生のニーズを知る。彼らのニーズの変化に対応する。
社会貢献活動、新春交流会なども東京以外でも開催してはどうか。日程のお知らせを早くしてほしい。
学生が講師となる語学カフェを提案。地方にいる会員が企画する観光ツアーはどうか。
会の運営にエリート意識が感じられて溶け込みにくい。国際交流に社会問題提起を、民間外交の根本問題を掘り下げる。例えば差別問題など。原発問題はどうか。
就職支援で日本企業の実態をアドバイスする。日本を好きになってほしいという気持ちだけでいけないのではないか。
留学生と会員が共に行動する機会を増やす。
今まで通りのパソコンによるメール交流を主な活動にする。
規模拡大を図るだけではなく、学習者支援という会の原点に立ち返ること。Ｉメイト交流の勉強会はとてもいい。
多様な日本文化を知る機会を設ける。伝統的な日本文化はもちろん多くの分野に興味関心を持ってもらいたい。
文化交流、料理講習、小説の読書会、伝統文化の観賞会、学生のアンケートを集めてニーズの大きいテーマに絞る。アジ風にとっての重要項目を見直す。植樹はアジ風の設立趣旨とは離れているのではないか。

回答率42%

Web座談会 ―さらなる拡がりをめざして―

7月1日 神田ホールにて

司 会：上高子

参加者：菊池和美、竹宮聡、チャン・トゥ・チャン、
荒木春洋、奥山寿子（敬称略）

上：ファシリテーターの上高子です。今日はお集まりいただきありがとうございました。まず、本日の座談会を企画した経緯を奥山さんから聞きましょう。

奥山：今年はアジ風創立15周年にあたり、今後のアジ風の活動について、会員の皆様にもご意見を伺おうとアンケートをしました。その回答のなかで、建設的な意見を寄せていただいた方、もう少し具体的にご意見を聞きたいと思った方を選ばせていただきました。また、IT機器を使って地方の方々にも参加していただきたいと思い遠方にお住まいの方をお二人にご登場願いました。

アンケートの回答をご覧になりながら、話合いをしていただきたいと思います。

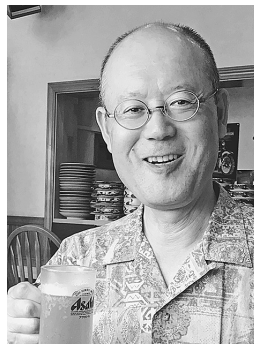
上：では最初に自己紹介をしていただきましょう。入会の古い方から順番にお願いします。

菊池：創立時からの会員で、最初のうちは大学訪問などに関わっていましたが、しばらく遠ざかっていました。

リハビリテーション分野の大学教員をしていますので、普段から学生と接していますが、アジ風で出会う学生さんたちは皆さん大変優秀で、交流は楽しく刺激的で、「アジアの今」を感じ取ることが出来ると思っています。これまでに中国、タイ、ベトナムの学生さんとのIメイト交流や、スピーチコンテストの審査員として訪中するなど、大変貴重な経験をさせていただいております。現在も、タイの学生さんと交流中です。

竹宮：私は横浜に住んでいた2004年に入会し、2015年に両親の介護のために福岡にUターンしました。北京第二外国語学院から始めて清華大学、タマサート大学、貿易大学とIメイト交流してきました。

関東在住の頃は総会や交流会にもできるだけ参加し、中国やタイの大学訪問にも参加してきました。タイではご家族との面談の機会もありました。九州へ引っ越してからは、インターネットの動画を使ってプレゼンテーション大会の審査員を務めるなど、遠方でもできる範囲の活動



をしています。

現在の仕事は、九州大学で企業との産学連携の共同研究で、クリーンエネルギーの分野の研究をしています。ベトナム、中国、インドネシアなど、アジアの国からの留学生が多く、彼等との交流もあります。

アジ風の I メイト交流というのは遠くにいても続けられるのがいいですね。今年の GW には、ベトナムから神戸大に留学している貿易大学の I メイトと夫婦で初めて会い、とても楽しい時間を過ごしました。

チャン：2010年に貿易大学で I メイト交流を始めました。パートナーは上さんです。2011年、震災の年ですね。この年に貿易大学を退学して京都大学に留学しました。それから京都大学を卒業するまで学生会員として活動し、その後日本企業に就職し、正会員になりました。学生時代はいろんな貴重な活動に参加させていただきました。その経験を後輩の皆さんにも体験してほしいと思っています。

荒木：熊本市在住の荒木です。2012年、まだ現役の時に入会しました。40年近く民間企業で働き、定年退職後、故郷の熊本に帰郷しましたが、半年後 1 年間韓国に留学しました。

最初の I メイトはハノイ貿易大学のホアン・ゴック・チャンさん。人懐っこく皆に好かれる人で、大変親しくなりました。京都留学中に知り合ったご主人と結婚して、現在はアメリカに住



んでいます。私たち夫婦はハノイで行われた結婚式にも参列し、今も交流が続いています。つぎの I メイトはパジャジャラン大学のナディアさんです。今年の 4 月から立教大学に留学しています。東京～九州と離れていますが、I メイト交流を通じて日本での留学生活がうまくいくよう応援しています。

<アジ風の活動についての提言>

上：ありがとうございました。次は、今後希望するアジ風の活動について、お聞きしたいと思います。アンケートでは伝統的な日本文化体験という回答が多かったのですが、そのほか、ホームステイやホームビジット、旅行などいろいろな意見がありました。そのなかで菊池さんからご自身のご専門である老人福祉についてのご提案もありました。

菊池：ほとんどの学生が将来は日本語を使って仕事をするということを考えますと、日本語や伝統的な日本文化に特化せず、もっと広い視野で今の日本を見てほしいと思います。若い I メイトたちには、日本の直面している問題（例えば高齢社会）を見てもらってもいいのではと思います。日本はアジアのなかで高齢化のスピードとその後の対策においてモデルとなりえます。私たちが交流している中国もベトナムもタイもいずれは

高齢社会を迎えるわけですから、将来の問題として、また新たなビジネスチャンスとしても現状を見てほしいと思います。

上：高齢者福祉に関して日本はアジアの国のロールモデルになりますね。このような企画をすれば、菊池さんがリードして体験的なセミナーをやっただけでいいのでしょうか。

菊池：単なる施設見学だけでなく、ボランティア参加の実体験をアレンジしたり、地域づくり（地域包括ケアシステム構築）政策や、認知症対策（新オレンジプラン）の方針、最先端のリハビリテーション技術などに関連した情報提供等、日本が直面している問題をどのように解決しようとしているのか等について、学習する機会を提供できると思います。

<家族ぐるみの参加>

上：ところで今回偶然ですが、4人ともご家族ともにアジ風とかかわりがあります。竹宮さんの奥様は元清華大学の派遣教師で、現在は賛助会員。九州の大学で教員としてご活躍です。菊池さんのお母様は早くから家族会員で、長くIメイト交流を楽しんでいらっしゃいます。チャンさんは妹さんが来日して、現在学生会員として大学院入学を目指して勉強中です。そして荒木さんの奥様は日本の伝統文化、お茶や華道を留学生たちにも教えられると、アンケートに答えておられます。

アジ風はできたら家族ぐるみで入会していただけると、ホームステイやホームビジットが実現するという期待があります。皆さんご家族の理解があってこそ、アジ風の活動がうまくいっているのかもしれない。

菊池：家族と一緒に留学生を受け入れるという話もいいですね。私の場合、母がIメイト交流に参加していますので、これまでに7、8人のホームステイを受け入れ、ホームビジットについてはその倍以上の方がお越しになりました。近所の人を巻き込んで夕食会や演奏会へのお招き、お祭りの参加など、いろんな企画をしてきました。一番長く滞在した方の場合、



現地の結婚式にお伺いし、再来日中おめでたが判明して、一緒に産婦人科受診や安産祈願のお参りに行ったこともあります（笑）。なんだか遠くの親戚のような気持ちになりました。

ホームビジットやステイは日本のリアル生活体験を通じ、文化的背景や実生活（生活習慣や日本人である私たちが無意識でやっていること）への理解を深める上で、大変効果的だと思います。希望する学生と受け入れ可能な会員の方の橋渡しをしていただき、もう少し気軽に多くの方が安心して参加できる仕組みづくりができると良いと思います。

上：九州のお二人の共通点はUターン組だということですね。お二人が協働して学生たちが九州へ旅行するなどの企画をしていただけませんか。

荒木：家内は日本の伝統文化のお稽古ごとを長い間継続してやっていますので、いまアメリカにいるチャンさんが我が家に二度来てくれた時には、日本の伝統文化を体験してもらいました。家の仏壇の前に案内し位牌に手を合わせてもらったのも、広い意味で文化体験だと思いました。家内は家族会員ではありませんが、家族ぐるみで交流できるアットホームな雰囲気は留学生にも信頼して喜んでもらっていると思っています。ただ、私は遠方に住んでいますので、どうやって実のあるアジ風の活動を行ったらいいかというジレンマはあります。熊本大学や九州内の各大学にもアジ風の学生だけでなくアジアの留学生がたくさん来ていますので、何か九州を拠点にした活動が企画できればいいですね。

上：ぜひ九州での活動を企画してアジ風の事務局にご提案ください。費用の問題がありますが、できるだけ私たちも協力したいと思います。

次にチャンさんにお聞きします。チャンさんはもっと若いIメイト学生の参加があればいいという回答でした。どうすれば彼らが活動に参加できるか、なにか提案はありますか。

<学生たちの主体的な企画>

チャン：アジ風の活動、イベントはいままで事務局が企画して案内し、学生たちは参加するだけという受動的な形ですが、学生たちも企画に関わって、もっと主体的に参加するようにしたいと思います。現地の学生や留学生に、もっと主体的に参加してもらう方法を考えた方がいいです。

奥山：それはうれしい発言ですね。でも勉強で忙しい学生さんが、どのよう関わってくれるのか。学生が主体的に動いてくれるような何か具体的なヒントはありますか。

チャン：例えば貿易大学でのイベントですが、私自身はアジ風の活動の時だけしかIメイトの学生との交流はありませんでした。実際交流に参加した場合に連絡先を交換していますが、これは個人的な関係です。できればSNSでグループを作れば、自分たちでどこかへ行こうとか誘うことができますね。そしてアジ風が何か企画してくれたら、一緒に参加しましょ



うと声がけすることもできますし、アイディアを出すこともできます。

上：私たちは遠慮があるんですよ。学生たちは忙しいんだと。留学している学生たちがアジ風の活動に参加してくれるだけでいいと思っていました。でもそのようなことができるなら積極的に働きかけてみましょう。

奥山：いまはSNSで簡単にグループづくりができますのでそれを利用して、大学の枠を超えたグループができたらいいですね。今まで、アジ風の活動では、どうしても大学間で固まってしまう。せっかくいろんな国

の学生が集まっているのですから、一緒に活動してもらい、会員はその中に入れてもらうという形が理想かなと思います。

チャン：最初はアジ風の事務局が各大学のリーダーを決めて、その人たちにグループづくりをしてもらうというのがいいと思います

奥山：旗振り役ですね。

<会員の経験を生かす工夫>

菊池：会員の皆さんは実に様々な知識やご経験をお持ちだと思います。皆さんがそれぞれお持ちの知識・情報・経験等について、情報提供いただき、そのエントリー情報を共有するネットワークを作ったらどうかと思います。学生たちもそれぞれ興味・関心は違いますので、それらの情報をもとにマッチングしていただければ、希望に合わせて相談したり、情報提供を受けたり、興味ある活動に参加したり、チャンさんがおっしゃったような活動を学生自らも立ち上げることができるのではないかと思います。

奥山：今回のアンケートでは会員に得意分野、協力していただけることを書いていただきました。その結果、多くの分野で協力が得られることがわかりました。これを今後どのように活用するか、考えてみます。

竹宮：会員の提供できる内容のデータベース化と活用は事務局の課題だと思います。企業人事においても個々の社員の技術・技能をデータベース化して新規プロジェクトの際に活用していくことは、昨今の企業の主要課題なので、アジ風もそのエッセンスを学ぶと良いのではないのでしょうか。

<会員を増やすには？>

上：次に会員の増強について、アジ風は熟年の男性が多く女性が少なめです。どうすれば若い会員を増やすことができるか。チャンさん何かアイディアがありますか。今交流している大学に限らず日本国内の留学生に声をかけたらどうか、とアンケートには書いてありましたね。

チャン：日本にはいろんな留学生が来ています。その学生たちを入れるということです。また同じような活動をしているとNPOと協働するのがいいのではないかと思います。



上：アジ風はいま4校に限定してIメイト交流をしています。この枠を作らないで多くの学生と交流するという点について、皆さんはどうお考えでしょうか。

荒木：交流する大学の枠を広げるということは簡単ではないと思います。アジ風は大学と提携し、責任をもって紹介している学生たちですから、会員にとっても安心感がありますね。

奥山：アジ風の事務局の現状では現在の交流4校で精いっぱいです。現実には派遣教員を送っているのはただ1校のみです。あとは大学の先生に協力を求めたり、留学経験のある学生に現地の事務局をやってもらっているというのが現状です。

竹宮：現在の4校の数を増やすよりも、交流の質の維持と向上を心がけた方がいいと思います。提携校を増やしても、交流を始めた後のフォローがされにくく、疎遠になって消滅してしまう恐れがあります。

アジ風の特徴であるIメイト交流、現地訪問、ホームステイ、読書感想文、現地での懇親会などなど、会員とそれまでメールで交流してきたIメイトが直接会うことで生じる深い交流が、できる範囲で行うことが望ましいと思います。

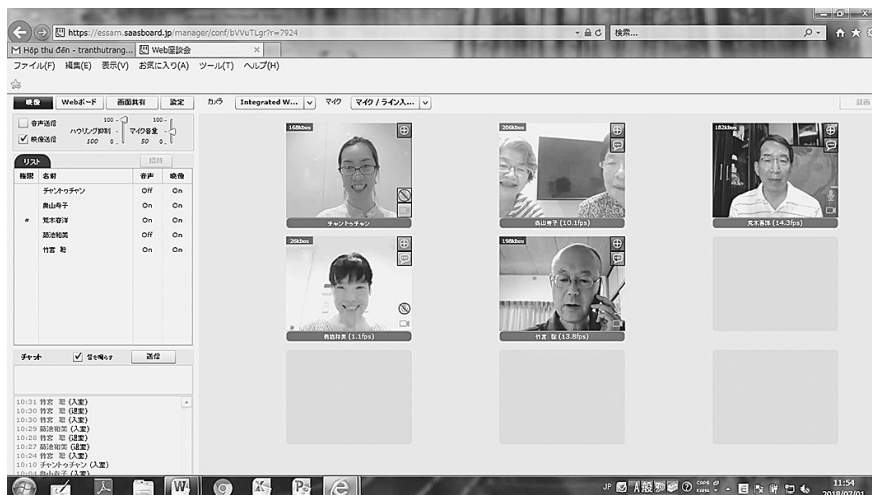
上：実は若い会員の増強ということで、最近、昭和女子大学と明治大学の学生、合計8名を勧誘し、学生会員として入会してもらいました。その学生たちは、まず清華大学の学生とマッチングをしますが、そこに正会員が加わって3名で交流をしたらどうかと考えています。若者だけではない大人の会員が入ることによって、深みが増すのではないかと考えます。実は私は明治大学の学生と清華大の学生と実験的に3者でメール交流をして、手ごたえを感じています。

竹宮：Iメイト学生、日本人学生、ある程度の年齢の会員による「3者交流」は、新しい試みとしてぜひ実りあるものにしていただきたいですね。海外に住んでいるIメイトと日本在住の会員との間では必ずしも話題や興味が一致しないこともあります。一方、学士同士だと話題は一致しやすいが、便利さを求めた短期的なやり取りだけで終わってしまうことがあるように思います。その点、ある程度熟年の会員との3者で交流することで、話題に深みがでてくるのではないかと期待されます。

菊池：会員増強については、Iメイト学生が卒業してそのままになってしまうのではなく、緩やかなつながりのネットワーク（例えば終了生会員のようなもの）があれば、時間ができた時や大学院留学中やその後、何かをきっかけにまた戻ってくるのではないかと思います。

上：Iメイト解消後もOBOG会という形で名簿があり、年に2回メッセージを送っています。

竹宮：今回、菊池さんからご紹介のあった「介護・福祉の視点での交流イベ



ント」は、会員にも関心が高い方が多く、これから高齢化社会を順に迎えていくアジアの各国の学生にとっても先進的なテーマです。事務局から魅力あるイベントを企画提案すると、参加者の中から関心のある入会者が出てくるかも知れません。

荒木：会員増強ということ言えば、まだ現役社員でバリバリ働いている人でも定年が近くなると、退職後は何をしようかと考え始めるものです。そのような時期にうまくアジ風を紹介できれば、比較的に入会しやすいのではないかと思います。また、海外に支社や駐在員事務所があり積極的に海外展開をされている企業は、アジ風の学生には関心があるはずです。先日出席した東京のIメイト交流会で、パネリストとして参加されていた企業の方のように、アジ風活動に関心がありそうな会社へアプローチすることもいいのではないかと思います。

奥山：皆さんからいろんなご意見を伺い、今後の運営のヒントになりました。
ありがとうございました。最後に、今回のようなWe b座談会について
どんな感想をおもちでしょうか。

菊池：初めてのことで、沢山の新発見がありました。また、皆様とのお話を通して、アジアの新しい風の活動の自分自身にとっての存在や活動意義を改めて実感いたしました。今後はもっとアジ風に関わりたいと思います。

荒木：九州と東京、離れていても顔を見ながら意見交換ができる。とても有意義な企画でした。今後もIT機器をうまく活用してこのような機会を作ってほしいと思います。

竹宮：リアルタイムで意見を交わすことができて、よかったと思います。

上：そろそろお時間です。本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

5年後、10年後のアジ風

2028年を夢見る

理事長 加納 啓良



「アジアの新しい風」が創立15周年を迎える。記念に10年後の姿について抱負を述べよ、というお題を頂いた。と言っても、私自身は縁あって理事長職をお引き受けしてから2年しか経っておらず、それ以前のことは体験にもとづく知識がない。また、インドネシアで30年以上も前にボランティアの日本語教師をしたり、20年近く前にジャカルタの大学で日本研究支援の仕事に携わった経験はあるが、アジ風の会員の皆さんのようにアジアの留学生と個人のレベルで交流・支援した経験はない。それは承知で蛮勇をふるい、10年後に向けた課題を3つ提言してみよう。

第1は、組織の担い手の世代交代である。主力選手たちの平均年齢を10年は若返るようにしなければならない。第2は、交流の対象と内容をこれ以上広げるよりも、現状の4ヵ国について深めることである。それには、相手国に対するこちらの理解も深める相互交流の枠組みをもっと工夫する必要があるかも知れない。第3は、これまでの交流経験者たちを促し、相手国側にそれぞれアジ風と相似する組織を作ってもらったらどうだろう。相手国の若者たちの日本理解を助けるだけではなく、将来の日本の若者たちによる相手国理解を助ける活動をしてもらうのである。そうすれば、アジ風は相互理解の本格的国際組織にアップグレードすることになるだろう。

トランスボーダーの企画

理事 上 高子



10年後のアジ風はIメイト同士の更に個人的なお付き合いが深まる。今もすでに一部に見られる現象、たとえば家族ぐるみの親戚づきあいとか、国際結婚とか、が当たり前のようになるのではないか。(元Iメイト学生で現在会員のうち、日本人男性と結婚したカップルは4組)。

アジ風の発足時には、メール交流ですら恐る恐るという感じだったが、15年間にはネットの急激な進展でスモールワールドにな、誰でも簡単に外国人と知り合うことができるようになった。そんな中で、アジ風ならではの特徴は、日本語でコミュニケーションできること、学生は日本に興味を持つ優秀な人材であること、関わっている組織（アジ風と大学）に

信頼が置けること、などであろうか。これからも信頼を置いてもらえるNPOとしてしっかり負託にこたえたい。

元Iメイト学生のうち、日本で就職や結婚して本拠を日本に置く学生たちが、役員、事務局運営メンバーの一員となり、国際結婚のサポートなど、トランスボーダーの企画をしている。そこに世界標準となり得るような、「アジアの価値」を見出し、「アジアの新しい風」としてメッセージを発信していけたら嬉しい。

この目で確かめられることを目標に長生きしたい。

創立15周年を迎えて

理事 谷口 浩章



2006年高校同級生の上さんからの依頼で監事を引受け、ついで理事になって12年経ちました。個人の寄付を集めやすくするため認定NPOにしてほしいと言われて、幸い3年後の2009年全国109番目に無事認定を受けることが出来ました。認定取得もありアジ風の活動は財源も含め法人ではなく主に個人会員によって支えられております。

草の根の多文化交流と言っても会員数が限られており、「将来日本との懸け橋になってくれる人」をターゲットにするべく、交流は各国の一流大学と、学生は其中でトップクラスを出来るだけ選別してIメイト学生にしてきました。

日本語教師を派遣しその教え子と日本人会員とのメールによる交流から始まった活動は日本から交流校訪問、日本への留学生増に伴い日本での留学生支援、2国間交流のみならず多国間交流へと広がってきております。また3年前から奨学金支給も始まり、交流国も当初2か国から4か国と活動は一見順調に拡大しておりますが、ここ数年は会員の高齢化による会員数・寄附の伸び悩みが見られます。15周年を迎えた今アジ風の将来について議論するいい機会だと思います。

全員参加で運営

理事 中村 一郎

早いもので、私がアジ風と出会って13年になります。

中学生の頃、小田実の何でも見てやろうという著書を読み、海外に興味を持った私は、アジ風の草の根交流を通しての異文化理解と多文化共生、それも欧米ではなくアジアでという理念に感銘を受け、また創設者の上さんの熱い思いと行動力にひかれたのがきっかけで、活動に参加させていただき現在に至っています。



以来 I メイト交流主体のスタンスはぶれることなく、提携大学訪問や留学中の I メイト学生との交流等、その時々出来る活動を地道に続けてきました。

数年前からは助成金も得て、複数大学の先生と I メイト学生が一堂に会しての交流も始まっており内外から好評を博していますが、一方で課題もいくつか明らかになっています。例をあげれば、有意義で魅力的な企画を支える財務面の脆弱性であり、会員の高齢化等です。

これからの活動は会員の若返りも含めた増強や財務面での安定性を模索しつつ、一芸を有する方、地縁人縁／識見達見を生かす方、資金に余裕のある方等々、会員個々それぞれが出来る事を率先、企画立案から実行に至るまで全員参加で運営していくそんなアジ風になっていく事を信じてやみません。

長く深い関係がアジ風の魅力

理事 福田 陽子



昨年開催された 5 か国交流会では元 I メイト学生の皆さんの活躍が大変印象的でした。皆さん、生き生きと司会進行をされ、非常に魅力的でした。元 I メイト学生の皆さんの存在は大変貴重であり、まさに今後のアジ風の発展の鍵を握っていると思います。今後、交流会等だけではなく会全体の運営にも加わっていただけたら、アジ風もより I メイト学生の声を反映した活動ができ、発展していけるのではないのでしょうか。

卒業後もアジ風に関わってくださる皆さんの共通点は、何と言ってもパートナーの会員やその他のアジ風メンバーとの素晴らしい関係があることだと思います。交流会などでもいつも多くの会員に囲まれて笑顔で過ごしている姿が印象的です。やはり長く深い関係を築いていけることが、アジ風の活動の原点であり魅力だと思います。ただ、一方で I メイト交流が上手く進まず会から遠ざかってしまう学生や会員の皆様がいらっしゃることも事実です。一役員として、設立当初の願い・目的（一人でも多くの人に多文化共生の魅力を知ってほしい）を常に忘れずに、漫然とではなく真摯に活動に向き合っていきたいと改めて感じております。

I メイト交流はアジ風活動の根幹

理事 古海 正子

創立から今日まで、アジ風の活動は、設立者とその思い、情熱に、賛同した多くの仲間の力に支えられ、発展してきた。日本語を学ぶアジアの学生が大学を卒業し、日本の企業に就職し、日本人のように日本を理解し、日本で根を



張っていくのは素晴らしい事だと思う。

しかし、時の流れと共に、会員も高齢化が進んでいく為、これからは若い年代の会員を増やす事、そして日本人学生にも会員となるよう働きかけていく必要を感じる。

会員として、アジアの大学生との交流は素直なパワーをもらったり、思いがけない発見があったりで、お互いの年齢に関係なく新鮮で、刺激があり、楽しいと気づいている会員は多いと思う。その意味でIメイト交流は今後もアジ風活動の根幹であると感じている。

これからも人的な交流は現在の草の根活動の精神で継続し、交流校は今の4校を維持、無理に増やすことはせず、会全体の若返りを計る。会員数は現状維持を目標とし、可能なら少し人数を増やす事が望ましい。現在は理事や、事務局サポーター等が運営に関わっているイベントはもっと多くの会員に参加してもらおうような仕組みを作ったらよいと思う。通年で関わるのは難しくとも、イベントごとに、それぞれの得意分野を活かし当事者意識を持って頂く事で、会が活性化し、アジ風の精神は次の世代に引き継がれていくものと信じている。5年、10年後のアジ風に今よりもさらに爽やかな風が吹いていることを切に願っている。

創立15周年に当たり

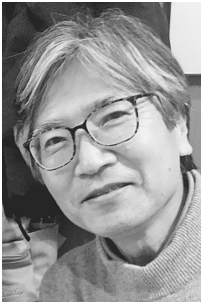
理事 石河 庄一



私は恥ずかしながら今、日本国憲法の勉強をしているところです。憲法の前文の中に「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」というフレーズがあります。アジ風の活動の目的は定款第3条にありますように「この法人は、日本語教育を通して歴史、社会、文化など日本についてアジア諸国の理解を得るため、日本語教師の派遣や、派遣先の日本語学習者への支援や、学習者との文化交流などの事業を行い、同時にアジア諸国について学び、相互理解を築き上げることによって、アジアの平和とひいては世界の平和に貢献することを目的とする。」とあります。双方とも国家は信頼できなくても人間は信頼できるということが前提になるということと私は理解しますが、この崇高な目的と活動が今後も色あせることなく永遠に続くことを願っています。

世界に友を得る喜び

理事 武田 高



50年前、私は数か国に友人を持つペンパル少年でした。今もアジ風のおかげでそのころと変わらぬ楽しさをいただいています。これから後、5年、10年、15年後まで、アジ風は何のために存在するのか？それは、アジ風の会員と各国の学生が、世界に友を得るという喜びを感じるためであり、これが今後も変わらぬアジ風の存在意義だと思います。

アジ風がこのような存在であり続けるため、時々の学生のニーズに沿って日本文化や日本語学習を始め諸分野の研究、興味、就職等、彼ら自身のライフ・ステージに合った支援メニューを一層充実させるとともに、各方面の関係機関との連携を拡大、強化すること、アジ風と学生との関係を支える各国の大学当局との協力関係を一層強固なものにしていくことなどの努力の継続が必要でしょう。

今日、国家間、民族間等で、紛争、不信、無理解、そして無関心が渦巻いていますが、マスコミを介して伝えられる圧倒的な量の情報や、インターネットを通じて交わされる個人間でやり取りされる匿名の情報は、ともに事実に対して大きなバイアスをもっているようです。アジ風が目指す「草の根の交流」は、顔の見える関係を作り上げることによって、ささやかながらもこのような状況に対抗できるものではないでしょうか。アジ風は、多くの人がアジア各国に友を作れるよう地道な活動を続けていくべきだと考えます。

これからもアジアの新しい風

監事 大橋 典子



最近、外出して外国語を耳にしない日はほとんどありません。一番耳にするのは中国語、次に英語、そして私には聞き分けがつかないアジアの様々な言語。

アジアの新しい風は、時代に先駆けて15年、「多文化共生」を願い、活動してこられました。会員の皆さんは、中国、ベトナム、タイ、インドネシアの学生との交流や様々な勉強会、ディスカッションなどを通じて相互理解を深め、日常生活の中の「多文化共生」にも、その経験を役立てていることと思います。これは、アジアの新しい風の大きな成果だと感じています。

ある国の言語を学びたいと思う原動力には、その国の経済的魅力が大きく影響すると思いますが、それは我々にはどうすることもできません。今後、日本に興味を持つ若者達は減少していくかもしれませんが、ネットだけでは

ないリアルな交流と人生経験を生かした支援が私たちNPOの大きな強みだと考えています。交流の対象は、日本語科の学生だけでなく、日本に留学してくる学生にまで広げて良いかと思いますが、日本の会員側では現役年齢がどんどん上がって生活に余裕が無くなってくることも心配です。経験の長い諸先輩方と大いに議論しつつ、まずは20周年を目指して活動してまいります。

東京工業大学—清華大学 架け橋からのメッセージ

アジ風の理念と共通点

東京工業大学学務部留学生交流課 王 亜民



2013年に日本留学時の恩師上先生と奥山先生に再会した。運命的にも現職の東工大—清華大合同プログラム（日本初の大学院ダブル・ディグリープログラム）と恩師が立ち上げたNPOアジアの新しい風（以下アジ風）とはほぼ同期にスタートしたことを知った。しかも理念に共通点が多いことに驚き、アジ風のパートナーとして協力関係を作り上げたいと決意した。早速同年9月から毎年、東工大に留学した清華大大学院生をアジ風に紹介している。いま「架け橋グループ」と名付けられ、5年間で20名以上の若者たちが会員の皆さんと交流してきた。

清華大プログラムの目標は日中の文化、習慣を理解し、チャレンジ精神のある優れた理工系人材を養成することである。その過程において、アジ風のプロジェクトとは、互いにwin-winの関係を築けると信じている。日中両国とも長い歴史、文化、思想を持つ国である一方、異なる制度や習慣が存在している。技術面、経済面においては先進国だった日本に学んでいた20～30年前と比べると、中国は近年経済活動が著しく、IT革命と通信技術の躍進には目を見張るものがある。地球規模の情報量が速やかに伝達され、共有する一方で、コミュニケーション手段の多様化に伴う新観念、新意識が生まれてきた。しかしどのように時代が進化しても、アジ風の顔が見える支援は、若者にとって貴重な経験となるだろう。私たちの協力関係はともに「継続は力なり」を信じて、清華大の若者とアジアの新しい風との交流を深め、両国間で、アジア地域で、そして地球規模の絆が20年、30年も続くように願っている。

アジア風に期待すること

研究や人の成長に影響するアジア風

清華大学外国語文学系副教授 陳 愛陽



私は清華大学に入職したのは20年前のことでした。大学の食堂を利用し、泊まりは大学の職員宿舎。十数㎡の部屋には、机、椅子、二段ベッドと本棚一つだけ、窓の外は大学の運動場、その向こう側に大学の図書館がありました。

朝のランニングと食事の時間以外、ほとんどの時間は図書館で過ごしました。八月の緑に囲まれるキャンパスの中は静かでいい感じでしたが、唯一の物足りなさを感じられたのは、日本語の資料が少ないということでした。当時の大学図書館では、日本語の原版書が少なく古かったです。学生の速読の授業のために日本語の文章を探すことが一苦勞でした。ある日、偶然に深代惇郎氏のエッセイ集『天声人語』を見つけました。文の長さや難易度は学生にとってちょうどよかったのですが、昭和50年代の出版の時評なので、教材として使いにくいのです。その後アジア風から陳舜臣のエッセイ集をいただき、その中の文章を学生に読ませました。

時代が変わり、電子書籍や視聴資料など、インターネットに登録すれば、いくらでも検索できます。しかし紙で作られた本の実感、活字との触れ合いは、代えられないものだと思います。アジア風の方々は各分野の仕事を従事し、人生の経験も豊かです。読んで面白い、あるいは役立つと思った本や雑誌を紹介してくだされば今の学生たちや教師たちにも意義があると思います。そのような本の推薦、感想のシェアなどは、日本語教育だけではなく、研究や人の成長にも大きく影響することだと思います。

日々の小さな積み重ねを大切に

タマサート大学教養学部日本語講座准教授 タサニー・メーターピスィット

「アジアの新しい風」の皆さまには、日頃より学生の日本語力向上、そして交流にご尽力いただき、ありがとうございます。

「アジア風」の活動を紹介する時、学生達に対しては「日本語を使い、日本文化を知り、日本人との良好な関係を築いてほしい」という思いを込めています。そして「アジア風」の会員の方々に対しては「うちの学生を自分の子どものように温かく見守ってほしい」という小さな期待を持っております。



春・秋の I メイト交流会、文化体験活動、工場見学、植林活動、スピーチコンテスト、5 カ国交流会、アジ風新聞、アジ風奨学基金、就職支援、どれも貴重な活動ばかりです。互いに相手の気持ちを配慮しながら共に過ごす楽しい時間を重ねていくことで、心を通い合わせることができ、卒業後にもお互いの国を訪ねた時には気軽に連絡できる人、遠く離れていてもいつでも信頼できる友人がいるという関係を築き上げていけることを期待しています。

この活動の成果指標として交流ペアの数、やり取りしたメール数、留学できた学生の数といった数字に注目しがちですが、元来「アジ風」の活動は「メール交流を通じてアジアの大学で日本語を学習している学生を支援する」ことであることを念頭におきながら、これからも日々の小さな交流の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

アジ風との連携を強めたい

貿易大学日本語学部学部長 チャン・ティール・トウ・トゥーイ



貿易大学と「アジアの新しい風」との交流は2007年からはじまり、今年で11年目となりました。これまでは、I メイト交流をはじめ、日本語スピーチ、詩歌、川柳など各コンテスト、3 か国・4 か国交流会、日本人教師派遣、奨学金供与など数多くの事業がアジ風と当学部の共同によって実行されてきました。こうした交流活動を通じ、学生と会員の方々の関係が確実に築かれ、益々深まっています。また、各種コンテストや交流会での体験が、学生たちの日本、日本人、日本文化への関心や理解を深めてくれるように感じられます。

今春本学で開催された交流会では、日本料理とベトナム料理が互いに紹介され、川柳発表会では、日本語学部の学生による最優秀 5 作品の発表が行われました。参加者全員が若々しく、優雅な雰囲気に入れ、充実した時間を共に過ごしたと存じます。

また大変喜ばしいことに、今年度の「アジアの新しい風」の奨学金において、当学部 4 年生の学生ド・アイン・トゥーが神戸大学院生としてアジ風奨学金の第 4 回生となりました。

これまでの交流の成果を生かし、学生への支援を基軸に、今後も双方の連携関係が益々発展することを願っております。

日本語能力の向上に期待

パジャジャラン大学人文学部長 ユユ・ヨハナ・リサカルニワ



アジアの新しい風の皆様、15周年の記念をおめでとうございます！

皆様のますますのご活躍を祈ります。

アジアの新しい風との出会いは約3年前のことでした。当時、理事長代行だった上高子さんがバンドンに来られ、お会いしたことをきっかけに、その翌年、日経リクルートの招聘でパジャジャラン大学日本語学科の学生を共にし、東京に出張していた私がプログラムの合間にアジアの新しい風の奥山事務局長をはじめ、メンバーの皆様にご馳走になり、一緒に昼食しながら皆様に実施中の活動を含めて、NPOについて丁寧に説明していただきました。大変興味深い話でした。ましてや、加納理事長ご本人様とその一人のメンバーの方も以前インドネシアに駐在した経験もあると伺って、それを活かして、パジャジャラン大学の日本学科と協力して、NPOのプログラムをインドネシアでも実施できると確信しました。その後、NPOとの協定書ができ、すぐネイティブの斉藤先生の派遣やIメイト交流などのようなプログラムを通じて学生たちの日本語の能力を驚くほど上達させました。その結果は西ジャワ州日本語日本文化祭に表れました。斉藤先生の手助けもあり、当時スピーチコンテストなどの多くのコンテストにパジャジャラン大学の日本語学科の学生が優勝できました。これからもパジャジャラン大学とアジアの新しい風との協力は継続し、パジャジャラン大学の日本語教育に対して、さらなる貢献をしていただけると信じています。今後ともよろしくお願い致します。



清華大学（中国）



📄 日本語学科概要

教師数：14名（内、日本人教師3名）

学生数：日本語専攻生 142名（内、留学生53名、大学院生20名）

日本語履修生 1学年約1,500名（理工系学生がメイン）



タマサート大学(タイ)



4キャンパス:タープラチャン（市内）、ランシット（首都圏内）、パタヤー（東部）、ランパーン（北部）

📄 日本語学科概要

教師数:16名(内、日本人教師6名)

学生数:ランシット

日本語専攻生 約200名(各学年約50名(既習25、未習25)
(3年次から留学可 約20-30名)

日本語履修生 120~150名

タープラチャン

大学院日本研究課程 (約20名)





貿易大学（ベトナム）



日本語学部概要

教師数：18名（内、日本人教師6名）

学生数：ビジネス日本語専攻 約400名

国際経済学専攻 約100名

日本の大学と連携したコース 30名



パジャジャラン大学（インドネシア）



人文学部概要

教師数：138名

学生数：3456名（10学部専攻、4修士課程専攻、1博士課程専攻）

日本語学科概要

教師数：20名（内、日本人教師2名）

学生数：532名

編集後記

5年前の日経新聞入会組につき、私にとってのアジ風は、ハノイ貿易大学とタマサート大学で開催された三国交流会に参加した現地交流から始まり、楽しかった。今後の人生何らかの社会への恩返しをしたいとの思いが、アジ風入会の動機の一つであった。

別冊編集4冊目で、アジ風創立15周年記念号の編集に携わることができた。創立の2003年から15年間のアジ風新聞を整理してみると、知らなかったアジ風の歴史、アジ風の支柱であった林雄二郎氏の講演、お写真に触れることができた。また15年前の創立者とその仲間たちから、若さ、思い、情熱、エネルギーがほとばしっていた。総会の講演では寺島実郎氏や岸井成格氏など錚々たる人物に興味深い講演を依頼されていた。改めて役員のご尽力を窺い知ることができた。「アジ風と私」では、IメイトとIメイト会員の長く深い関係に魅了された。Iメイト会員の地道なご努力に頭が下がる。彼らは間違いなくアジ風の財産だと思われる。

私もIメイト達と5年後、10年後にも長く深い関係が築けるだろうか。私も楽しくIメイトと関わりたいと改めて思う。Iメイト交流を、今一度振り返り、アジ風の活動の原点を考え直したいと思う。

中村 泰 寿

山々に囲まれて丹波に育った私は「井戸の中の蛙大海を知らず」そのままに、井戸の番人・蛙として何の不思議も感じませんでした。

高校の上級生、上高子さんが『井戸と大海～ハッピーミディウムをあきらめない～』を上梓された折り、同じ丹波から大海に乗り出し、アジアの風も吹かせておられる。ならば井戸の番人でも諺の続き「されど空の深さを知る」こと、アジアに通じる大海も感じることはできるのではないかと、怖い物見たさで10年前に入会しました。

14号編集に携わりながら、産声を上げた途端にヨチヨチ歩きを抜け出して活動を始めるアジ風の歩みに驚嘆しました。直ぐに立ち上がる動物達に匹敵します。この馬力、底力は、15年前の時代の風—アジア各地の学生が日本へ憧れる眼差しと、アジアの若者に手を差し伸べたい会員の思い—と合致したに違いなく、学生も会員も生き生きと躍動しています。この数年は成熟期なのでしょう、少し緩やかな流れになっていると感じましたが、草の根は逞しく、大地や海原を這い進むに違いありません。

念願の空の深さと海の広さ。今秋、私のIメイトが留学してきます。さらに新鮮なアジ風を吹き込んでくれるだろうと、ワクワクしながら待っています。

ご寄稿くださいました皆様、掌に取り読んで下さいます方々、諸々をお世話になりました丹波新聞社の黒井良太さまに、心からお礼申し上げます。

原 谷 洋 美

=====
別冊 I メイト便り 第14号

「 I メイト交流の愉しみ」

ーアジ風に乗って I メイト交流はひろがるー

☐発行日 2018年 9 月 1 日

☐発行者 認定 N P O 法人
アジアの新しい風

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻き2-18-22-414

H P : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org

☐印 刷 丹波新聞社

=====